

但シ此出金ハ全ク一時償辨ノタメニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之ヲ各株主へ返辨スヘシ

○第六章 銀行名號ノ掲牌。社印ノ書體並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負責。所有物ノ明細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

銀行名號ノ掲牌及ヒ社印ノ書體

第六十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書體ヲ以テ其名號ヲ掲牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ掲クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告。諸証書。諸手形。諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用于ル

所ノ者ハ亦同シク讀易キ書體ヲ用于ヘシ

銀行名號ノ掲牌及ヒ社印用法ノ規定ニ戻リタルノ處分

第六十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ掲ケサルトキハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ爲サシメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若シ又銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用井或ハ人ヲシテ之ヲ用井シメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出

サシメ又ハ爲換手形約束手形。切手。証書。注文書。受取証書。受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用于ル者前條ノ規定ニ悖リテ記名調印シ又ハ記名調印セシムルキハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且右等爲換手形。約束手形。切手。注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サ、ルキハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主へ辨償スルノ責ニ任スヘシ

銀行ノ名號ヲ用サタル諸手形ハ銀行其責ニ任スルノ件

第六十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形。約束手形ヲ振出シ又ハ之ヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シ

タルモノ、如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルト雖此ノ人苟モ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

所有物ノ明細牒及ヒ其取扱ヒ規定ニ戻リタルノ處分

第六十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財產(動産。不動産ノ別ナシ)ノ種類員數ハ勿論其授受賣買及ヒ質入書入委託其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ舉アル毎トニ其事由並ニ其種類員數及ヒ質預リ人又ハ受託人等ヲ遺漏ナシ記載シ其時々頭取取締役等

之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ
 檢閲ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有
 財産ヲ質入書入シ又ハ之ヲ委托スル等ノ事アルニ當テ
 其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故サ
 ラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五拾圓ヲ踰エサル罰
 金ヲ納ムヘシ

但シ右所有財産ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル証據
 トシテ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ採用セラレ
 ヲ得ヘシ

營業ノ
 時間

第六十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店
 支店共定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除クノ外毎日午前第九時
 ヨリ午後第三時マテタルヘシ尤銀行ノ都合ニヨリ紙幣
 頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘ
 シ而シテ其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公
 告スヘシ

但シ爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式(又ハ臨時)
 休暇日ニ當ルモノハ其翌日之ヲ仕拂フヘシ

○第七章 株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序諸簿
 冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手續諸報告差出方等

總會ノ
定規

ノ事ヲ明カニス

第六十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ每年少クト

モ兩度宛之ヲ執行スヘシ尤臨時ノ事件ヲ評決センカ爲

執行スル所ノ臨時總會ハ此限ニアラス

格段決議ヲ以テ定
款ヲ更正スルノ件

第六十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ

次條ニ掲載セル方法ヲ以テ執行セシ格段決議ニ於テハ

其銀行定款中ニ記載シタル事件箇條ヲ變更訂正スルコ

ヲ得ヘシ

格段決議
ノ体裁

第六十九條 凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議按ヲ出

シ其銀行株主臨席ノ總員(本人代人ヲ論セス)四分ノ三以

上ノ同意ヲ以テ一旦其大体ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述

シテ之カ報告ヲナシ後十四日以外一箇月以内ノ時日ニ

於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主總

員ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル

者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

格段決議ニ於
ケル承認ノ件

第七十條 凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣

頭末ヲ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日(郵便遞送日數ヲ除ク)ノ内ニ之ヲ紙幣頭へ差出シテ其承認ヲ受クヘシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スコトヲ怠ルニ於テハ右ノ日數以後(即チ十六日目ヨリ)ハ怠慢時間一日ニ付十圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲナサシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

格段決議ニ於テ確定シタル
箇條ノ寫ヲ分賦スルノ件

第七十一條

凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ(此條例第四條六條ニ準據シ)現ニ之ヲ施行スルモノハ右

ノ事件ヲ正シク記載シタル寫ヲ各株主へ分賦スヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ詐偽ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサルニ於テハ右寫一通ニ付五圓ヲ踰ユサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲ爲サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシキハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

諸簿冊
ノ點檢

第七十二條

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊及ヒ報告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀

行此箇條ヲ遵守セシテ株主ノ點檢ヲ拒ムルハ五圓ニ
踰エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役支配人等故サラ
ニ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃セシ時ハ右同額ノ罰金
ヲ納ムヘシ

銀行ノ
検査

第七十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監
督スル爲メ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ(定例臨時ノ
別ナク)官員ヲ命遣シ銀行一切ノ業体ヲ検査セシムヘシ
但シ紙幣頭ハ時宜ニヨリ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀
行管轄地方官ニ依託シ其銀行實際ノ營業ヲ(定例臨時

ノ別ナク)検査セシムルコアルヘシ尤右検査ニ從事シ
タル地方官ハ其検査シタル旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ
紙幣頭ヘ報知スヘシ

検査官
ノ規定

第七十四條 右検査ノ官員ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ
其營業時間中ナレハ何時ニテモ其用所ニ至リ詳密ニ其
諸簿冊計表其他銀行一般ノ業体ヲ検査シ其銀行役員ノ
處務此條例成規ニ規定スル所ノ箇條ヲ遵守スルヤ否ヤ
ヲ視察シ而シテ其検査ノ實況ト考按ノ旨趣ヲ書面ニ詳
記シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

株主ノ請願ニヨリ銀行ヲ検査スルノ件

第七十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ請願アルニ於テハ紙幣頭ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管轄地方官へ委託シテ其銀行一切ノ業体ヲ検査セシムルコアルヘシ但シ其検査ノ實況ト考接ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭へ差出スヘシ而シテ紙幣頭ハ其寫ヲ其銀行ノ本店並ニ此検査ヲ請願セシ株主等へ下附スヘシ

銀行検査ノ制限

第七十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十三條七

十五條ニ規定スル所ノ検査官員ノ検査ヲ除クノ外他ノ検査ハ一切之ヲ受ケサルヘシ尤諸官廳ノ職掌上ニ於テ國法ヲ以テ検査スルカ如キハ此限ニアラス

定例報告書並計表ノ件

第七十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ半季及ヒ毎月其事務計算等ノ實際詳明ナル考課狀並ニ報告計表(成規第十六條ニ規定スル所ノ種類)ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店ハ支配人並ニ計算方之ニ記名調印シテ之ヲ紙幣頭へ差出スヘシ尤其書式ハ紙幣頭ノ指圖ニ從フヘシ但シ右半季報告計表ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ

以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ
臨時ノ報告並ニ報告差出方
ヲ怠慢スルニ於ケルノ處分

第七十八條 右定例報告計表ノ外紙幣頭尙ホ要用ト思考
スルコトアレハ銀行ニ命シテ臨時ノ報告計表ヲ差出サシ
ムルコトアルヘシ○若シ銀行ノ頭取取締役支配人等右定
例或ハ臨時ノ報告ヲ怠リ紙幣頭ノ命スル日ヨリ(郵便遞
送日數ヲ除ク)十日以内ニ差出サ、ルキハ十日以外(即チ
十一日目ヨリ)ハ一日ニ付五十圓ヨリ少ナカラス百圓ヨ
リ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

○第八章 利益金分配ノ方法及ヒ積金割合ノ規定ヲ

明カニス

利益金分配ノ方
法並滯貸金ノ件

第七十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ半
季毎トニ其銀行ノ總勘定ヲナシ其總益金ノ内ヨリ諸雜
費並ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ金額(若シ之アラハ)
ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金トナシ又此内ヨリ次條ニ規
定セル積金ヲ引去リ其餘ノ金額ヲ以テ總株主ヘ分配ス
ヘシ○尤右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前十日以内
ニ(郵便遞送日數ヲ除ク)紙幣頭へ差出シ其承認ヲ得テ後
チ之ヲ株主一同へ通知シ且新聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ

而シテ之ヲ株主一同へ分配スヘシ

但シ慥カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金

ヲ除クノ外其返濟期限ヲ過クルハ六箇月以上ニ及フ

モノハ都テ之ヲ滞貸金ト看做スヘシ

積金割合ノ規定

第八十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其資本金額十分ノ二

ニ至ルマテ毎半季其純益金ノ内ヨリ少ナクハ十分ノ一

宛ヲ引分ケ之ヲ積金トナシ以テ非常ノ豫備ニ供スヘシ

○右積金一旦十分二ノ員額ニ至ルノ後チ若シ損耗其他

ノ事故アリテ右割合ノ金額ヨリ減少スルハ尙ホ其後

毎半季純益金ノ内ヨリ少ナクハ十分ノ一宛ヲ積立到底

右十分二ノ員額ニ復スヘシ

○第九章 銀行ハ官廳ノ爲換方ニ従事スルヲ及ヒ外

國銀行ト聯合スヘカラサル事ヲ明カニス

銀行ハ大藏省其他ノ爲換方ヲ勤ムルノ件

第八十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ

外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方官廳其他ノ爲

換方ヲ勤ムルヲ得ヘシ尤其勤方ノ手續ハ爾時大藏卿

ノ考按ニヨリ其筋ヨリ命スル所ノ規定ヲ奉シテ以テ之

ニ従事スヘシ

銀行ハ外國銀行ト聯合スルヲ得サルノ件

第八十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非レハ内外地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖凡ソ海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲換ヲ取組ミ又ハ其他ノ營業ニ從事スルコトヲ得サルヘシ

○第十章 銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

銀行役員此條例ニ背戻スルヲ處分スルノ件

第八十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役タル者

ハ自ラ此條例ノ箇條ニ悖ルヘカラス或ハ銀行ノ役員其他ノ者ヲシテ之ニ悖ラシムヘカラス若シ背戻ノコアルニ於テハ此條例ニ於テ其銀行ヘ附與シタル特殊ノ權利ハ悉ク之ヲ取上クヘシ

但シ右頭取取締役此條例ニ背戻スルルハ紙幣頭ハ其裁判所(又ハ其府縣ノ聽斷主任官員)ヘ通達シテ之ヲ推糺シ其罪ノ實アルニ於テハ即チ其銀行ヲ鎖店セシムヘシ

此條例ニ背戻スル銀行役員ノ負責

第八十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ

此條例ニ背戻スルコトアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人へ損失ヲ受ケシムルキハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ

銀行役員ノ制禁

第八十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸証書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スベカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ銀行紙幣及ヒ預リ証書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲナシ爲換手形ヲ振出シ又ハ証書及ヒ切手ノ引受ケヲナシ約束手形爲換手形諸証書質物及ヒ公

裁ニテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書其他ノ要書ニ詐僞ヲ記載スヘカラス○若シ右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ検査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

銀行役員其銀行ヨリ借り得ヘキ金額ノ制限

第八十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借り得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又其銀行ヨリ借財ヲナス者ノ爲メ其証人又

ハ受人トナルヘカラス○若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背
戻シテ借財ヲナシ又ハ証人受人トナリ又ハ人ヲシテ之
ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アルハ此等ノ役
員ハ拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ
納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戻セシ者ヨリ速
カニ銀行ヘ返済スヘシ

銀行ノ名ヲ假リ自用ヲ
辨スヘカラサルノ件

第八十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人
其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益
ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員

之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者
ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

○第十一章 紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣
ノ贋造描改及ヒ其版板彫刻等禁止ノ事
ヲ明カニス

紙幣及ヒ諸手形
類發行ノ禁止

第八十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除
クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次第持
參人ヘ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ証書其他政府
發行ノ貨幣同様ニ通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ

其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ
數件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆ナ國法ニ從
テ之ヲ罰スヘシ

銀行紙幣贋造及
描改ノ禁止

第八十九條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀
行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造スヘカラス贋造セシム
ヘカラス贋造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス贋造ト
知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラ
ス又其文字畫圖ヲ描改スヘカラス描改セシムヘカラス
描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セシ紙幣ト

知リテ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラ
ス

銀行紙幣版板ノ彫刻及
紙品製造等ノ禁止

第九十條 右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ
之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫
刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ
之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシ
テ之ヲ製セシムヘカラス又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス
若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テ
ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

銀行紙幣及諸手形類ヲ傷損スルノ禁止

第九十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲換手形。約束手形其他証書ノ類ハ何人ニ限ラズ之ヲ切抜キ又ハ切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノコトヲナスヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲナサシムヘカラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ償金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

○第十二章 銀行ニ於テ其紙幣引換ヲ拒ミシ時ノ處分。特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ

公債証書ノ沒入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタル其持主ヨリ申牒ノ件

第九十二條 此條例第六十六條ニ規定スル銀行ノ營業時
間中其發行紙幣ヲ其本店又ハ支店(銀行紙幣引換ノ事務ヲ取扱フ)ニ持參シテ通貨ト引換ヲ望ムモノアルハ其本店又ハ支店ニ於テ之ヲ拒ミ又ハ之ヲ怠リテ其引換ヲナサ、ルニ於テハ右紙幣ノ持主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ其銀行ヘ掛合方ヲ乞フヘシ○
尤頭取取締役其掛合方ヲ止ントスルキハ其引換ヲ拒ミ

シ旨趣及ヒ其金額月日等ヲ書面ニ認メ頭取又ハ取締役
之レニ記名調印シテ之ヲ紙幣持主へ渡スヘシ然ル片ハ
其持主ハ右書面ヲ地方官廳へ差出スノミコシテ別ニ銀
行へノ掛合方ハ乞ハサルヘシ

但シ預リ金ノ返却ヲ拒ミ又ハ怠リタル時モ亦其預ケ
主タル者ハ本條ニ準シテ申請スルコトヲ得ヘシ

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタル片
地方官ヨリ紙幣頭へ報知ノ件

第九十三條 右地方官廳ニ於テ紙幣持主ヨリ銀行へ掛合
方ノ書面ヲ領受スル片ハ直チニ其銀行へ掛合フヘシ而
シテ其掛合狀及ヒ持主ヨリ差出シタル書面ノ寫ヲ紙幣

頭へ送達シテ其由ヲ報知スヘシ尤紙幣持主ヨリ頭取又
ハ取締役ノ調印シタル書面ノミヲ受取リタル片ハ唯其
書面ヲ紙幣頭ニ送致スルノミニシテ銀行へ掛合ニ及ハ
サルヘシ

但シ紙幣頭へ報知セシ書面ノ寫ハ其地方官廳ニ藏メ
置クヘシ

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミ
タル片營業停止ノ件

第九十四條 右地方官ノ報知ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ速
カニ検査ノ官員ヲ命遣シ其事實ヲ推糺シ其背戻ノ事實
相違アラサル片ハ都テ其銀行ノ營業ヲ差止メ金銀其他

ノ出納ヲ禁スヘシ
營業停止ノ後
賣買ノ禁止

第九十五條 前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭
取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手形諸証書類又ハ抵當
物。地所等ヲ他人ヘ譲リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人
ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取取締役支
配人其他ノ役員等此箇條ニ背キ或ハ譲リ渡シ又ハ賣渡
シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲナスコアルニ於テハ紙幣
頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘ
シ

特例監督役ヲ命遣シ及ヒ
公債証書ヲ沒入スルノ件

第九十六條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役
ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ
詳明ニ報知セシムヘシ而シテ其背戻ノ事實相違ナキニ
於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債
証書ヲ沒入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ三十日以
内ニ)申渡シ其公債証書ヲ取上クヘシ
銀行鎖店ニ付其銀行紙
幣官府ニ於テ引換ノ件

第九十七條 右諸般ノ手續了リシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘ
ノ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之

ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ
 時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスヘシ而シテ其引換タル紙幣
 ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其趣
 ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ
 沒入公債証
 書賣却ノ件

第九十八條 紙幣頭ハ出納國債ノ兩頭ニ協議シ此條例第
 九十六條銀行ヨリ沒入スル所ノ公債證書ヲ通貨又ハ其
 銀行紙幣ヲ以テ公賣又ハ私賣トモ爾時大藏省ノ便宜ニ
 從ヒ之ヲ世人ニ賣渡スヘシ尤其趣ハ新聞紙其他ノ手續
 ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

特例監督役ノ報知ヲ得テ
 跡引受人ヲ命スルノ件

第九十九條 此條例第九十六條ニ掲クル所ノ特例監督役
 ノ報知ヲ得之カ處分ヲナスニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀
 行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資産等
 ヲ取押ヘ諸貸付金立替金ヲ取立タル上ニテ其裁判所(又
 ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ謀リテ滯リ貸金類及ヒ銀行ノ
 所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預
 リ金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ
 割返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リ
 テ相當ノ分散ヲナサシムヘシ

銀行ノ借財償却處分ノ件

第百條 右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ三箇月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右時限中ニ申出テシメ其事由ト証書類トヲ檢按シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

銀行鎖店ニ付株主負責ノ制限

第百一條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令ヒ其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故アリテ其銀行鎖店分散スルコアルモ其株主等ハ其創立證書ニ於テ掲載シタル株

式金額ノミヲ損失スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ勿カルヘシ

鎖店處分宥恕ノ件

第百二條 紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ掲クル所ノ處分ヲナスニ際シ其銀行ヨリ尙ホ請願スルコアリテ其狀實ヲ具陳スル時ハ監督役ヲ出セシ日ヨリ三十日以内(郵便遞送日數ヲ除ク)ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セサルノ實証アルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ
監督役ニ達シテ暫ラク其處置ニ取掛ルヲ見合セシ
ムヘシ

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタル其
處分ニ於ケル諸入費辨償ノ件

第一百三條 此條例第九十二條ニ掲載スルカ如ク銀行紙幣
ノ引換或ハ預リ金ノ返濟ヲ拒ミ之カ爲メ生スル處ノ費
用即チ紙幣持主或ハ預ケ金アル者ノ出願入費及ヒ諸檢
査推糺ノ入費跡引受人ノ入費等ハ都テ相當ノ處分ヲ以
テ紙幣頭之ヲ取極メ其銀行ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ
○第十三章 銀行平穩鎖店ノ手續及其紙幣引換方等

平穩鎖
店ノ件

ノ事ヲ明カニス

第一百四條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ

協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルニハ其銀行
ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ
紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ後チ三箇月間新聞紙其他
ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行
ニ屬スル取引ノ清算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世
上ニ公告スヘシ

公債証書ノ下戻及ヒ銀行紙幣
流通ノ殘額ヲ處分スルノ件

第一百五條 右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘ
 タル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ預ケ置キタル公債証
 書ノ内ヲ取戻スコトヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半箇年ヲ
 過キ其銀行ノ簿冊上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル銀行紙
 幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右
 預ケ置キタル公債証書ノ全額ヲ取戻スコトヲ得ヘシ然ル
 上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之
 ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘ
 シ

殘在銀行紙幣引換ノ
 爲メ通貨領受ノ件

第一百六條 右鎖店シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノ

タメ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ
 詳記シタル受取証書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ

但シ出納頭ハ右受取証書ノ外ニ預リ証書ヲ製シテ之
 ヲ紙幣頭ヘ回附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ右
 通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣
 頭ヘ渡スヘシ

殘在銀行紙
 幣引換ノ件

第一百七條 右預リ証書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏
 卿ノ稟議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ

以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事
スヘシ

引換銀行紙
幣燒捨ノ件

第八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第

五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ其趣ヲ世上ニ公告ス

ヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭

ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘシ

○第十四章 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明

カニス

訴訟ノ取扱ハ一般ノ
方法ニ從フヘキ件

第九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會

社又ハ一般ノ人民ヲ相手取り訴訟スルカ又ハ他ヨリ此

銀行ヲ相手取り訴訟セラル、カノキハ都テ一般ノ訴訟

法ニ從ヒ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處

分スヘシ

罰金處
分ノ件

第十條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ

罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判

處分スヘシ但シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯

スヲアルキハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任

官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(三圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ

銀行納稅ノ件

○第十五章 銀行納稅ノ事ヲ明カニス

第百十一條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政

府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

○第十六章 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス

條例更正及ヒ廢止ノ件

第百十二條 此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ何時ニテモ之ヲ増補シ又ハ之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルコトアルヘシ但シ右増補其他ノ節ハ直チニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

國立銀行條例 畢

第三章 銀行成規

國立銀行成規目次

銀行創立手續ノ事	第一條ヨリ至ル
株金募方ノ事	第九條ヨリ至ル
資本金月賦入金ノ事	第十二條
資本金集合高申牒ノ事	第十三條
資本金増減ノ事	第十四條ヨリ至ル
公債證書預方ノ事	第十六條ヨリ至ル
銀行紙幣注文ノ事	第十八條ヨリ至ル
銀行紙幣發行ノ事	第十九條ヨリ至ル
	第二十條

損壞銀行紙幣引換方ノ事	第二十一條ヨリ至ル
株式ノ事	第二十五條ヨリ至ル
株式賣買ノ事	第二十七條ヨリ至ル
株式讓與ノ事	第三十條
株式沒入ノ事	第三十一條
總會ノ事	第三十二條ヨリ至ル
株主發言投票ノ事	第四十四條ヨリ至ル
諸役員ノ事	第四十八條ヨリ至ル
社中申合規則ノ事	第六十一條
利益金分配ノ事	第六十二條

諸計算ノ事

第六十三條ヨリ
第六十四條ニ至ル

諸願伺届等差出方ノ事

第六十五條

國立銀行報告ノ事

第六十六條

目次畢

○

國立銀行成規

○銀行創立手續ノ事

第一條 此條例ヲ遵奉シテ國立銀行ヲ創立セントスルニ

ハ先ツ五人以上ノ人員申合セ國立銀行創立致シ度趣ヲ

願書ニ認メ之ヲ大藏省ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ此願書ニ

ハ其銀行ノ營業場所資本金額等ヲ簡明ニ記載シ願請人
一同之ニ記名調印スヘシ而シテ其之ヲ差出スニハ願請人
直チニ之ヲ紙幣寮ニ持參スルカ又ハ(遠隔ノ地ナレハ)郵
便ヲ以テ之ヲ送達スルモ苦シカラス
但シ此資本金高ノ五分一ハ首トシテ其發起人等ヨリ
之ヲ出金シ若シ不足アラハ自餘加入ノ者ヨリ其引請
ケントスル株式金額ノ若干ヲ出金セシムルヲ以テ常
則トス

第二條 右五人以上ノ人員ハ即チ發起人ニシテ株金ノ募
方(若シ之アラハ)並ニ取締役ノ撰舉等相濟ム迄ハ都テ銀

行ノ事務ヲ擔當辨理スルモノトスヘシ

第三條 紙幣頭ハ右願書ヲ受取ラハ其發起人等ノ身分其

外トモ隱密ノ探索ヲ遂ケ且其管轄地方官廳へ其者共ノ身分營業ノ模様其外トモ公然諮問ヲナシ銀行創立ヲ許可スルニ相當ナリト思考スルニ於テハ右發起人等ニ創立証書並ニ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第四條 右紙幣頭ノ命ヲ受ルニ於テハ其發起人等ハ株金ノ募方(若シ募ルヘキアラハ)ニ取掛ルヘシ而シテ株主一定ノ後ハ直チニ集會ヲ催シ首メニ(入札公撰ヲ以テ)取締役五人以上ヲ撰舉シ此内ヨリ(前同斷ノ方法ヲ以テ)頭取

タルヘキ人ヲ定メ然ル後チ創立証書並ニ銀行定款ヲ遅クトモ三箇月以内ニ郵便遞送日數ヲ除ク之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右期月内ニ此差出方ヲ怠ルキハ前段ノ許可ハ取消シタルヘシ

第五條 右創立証書ノ雛形ハ左ノ如シ

一 國立銀行創立證書

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債証書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ付明治一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シ

タル國立銀行條例ヲ遵奉シテ國立銀行ヲ創立シ其業ヲ經營セント謀リ私共即チ此創立証書第五條ニ連署シタルモノ一致協力シテ當銀行ヲ創立シ左ノ創立証書ヲ取極メ候也

第一條 當銀行ノ名號ハ「國立銀行」ト稱スヘシ

第二條 當銀行ノ本店ハ「府管下第一大區一小區

「町一番地」ニ於テ設置スヘシ

（但シ支店ヲ置クハ其場所ヲモ茲ニ掲載スヘシ）

第三條 當銀行ノ資本金ハ「萬一千圓」ニシテ「百五十五」

圓ヲ以テ一株トナシ總計「株」ト定ムヘシ

第四條 當銀行ノ永續期限ハ開業免狀ヲ受ケシ日

ヨリ二十箇年間タルヘシ

第五條 當銀行株主ノ姓名住所其他並ニ各株主ノ引請ケタル株式ハ左ノ如シ

金額	引請株數	住所	株主ノ姓名屬族
一圓	一 <small>一券（又ハ一券ヨリ一券ニ至ル又或ハ一券一券）</small>	「 <small>府管下第一</small> 大區 <small>一</small> 小區 「 <small>町一</small> 番地」	「 <small>府</small> 華士族平民 何某

總計——圓

總計——株

總計——人

第六條 此創立證書ハ國立銀行條例ヲ遵奉シ銀行ノ業ヲ營ミ一同ノ利益ヲ謀ル爲メニ取極メタルモノニシテ其證據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號一年一月一日

各株主連名印

右——國立銀行創立證書ハ其株主等書面ノ通り記載約定シタル趣ヲ正實ニ保証スルニ付キ其證據トシテ余ハ茲ニ記名調印シ併セテ當廳ノ官印ヲ鈐シ

候也

年號一年一月一日

地方長官姓名印

地方官廳之印

紙幣察割印

右ハ——國立銀行創立證書ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ本察ニ受取り其事ヲ承認シタル證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本察ノ官印ヲ鈐シ以テ其銀行へ下付スルモノ也

年號一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣
察之印

第六條 右銀行定款ノ雛形ハ左ノ如シ

一 國立銀行定款

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシ
テ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ
付明治一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シ
タル國立銀行條例ヲ遵奉シ當銀行ヲ創立スル爲メ
其株主等協議ノ上決定スル所ノ條々左ノ如シ

銀行名號ノ事

第一條 當銀行ノ名號ハ一 國立銀行ト稱スヘシ
本支店設置ノ事

第二條 當銀行ノ本店ハ一 府管下第一大區一 小區
一 町一 番地ニ於テ設置スヘシ

(但シ支店ヲ置クキハ其場所ヲモ茲ニ掲載スヘ
シ)

資本金ノ事

第三條 當銀行ノ資本金ハ一 萬一 千圓ニシテ一
圓ヲ以テ一株トナシ總計一 株ト定ムヘシ

百五十
廿五

但シ國立銀行條例ノ規定ニ從ヒ株主等ハ其所
持株數ノ割合ニ準シテ此資本金ヲ増減スルヲ
得ヘシ尤増加ノ節ハ時宜ニヨリ新ニ株主ヲ募
ルコアルヘシ

第四條 何人タリトモ(外國人ヲ除クノ外)苟モ當銀
行ノ規則ヲ奉シテ其株式ヲ引受ケタルモノハ都
テ當銀行ノ株主タルヘシ

株式券狀ノ事

第五條 各株主タルモノハ其引請ケタル株式一箇
ニ付キ株式券狀一通宛ヲ領受スルノ權利アルヘ

シ但シ其雛形ハ左ノ如シ

(茲ニ銀行株式券狀ノ雛形ヲ掲クヘシ)

第六條 當銀行ノ株式ハ國立銀行條例成規ノ規定
ニ從ヒ頭取取締役ノ許可ヲ受ケ當銀行ノ簿冊ニ
引合セタル上ニテ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ヘシ
尤其株式券狀ノ書替ヲナサ、ル時ハ當銀行ヨリ
割渡スヘキ利益金ハ新故ヲ論セス其株式券狀ノ
名前入ヘ渡スヘシ

頭取取締役撰舉ノ事

第七條 當銀行ノ取締役ハ(三十)株以上ヲ所持ス

ル株主ノ内ヨリ五人以上ヲ撰擧スヘシ其撰擧ノ
初集議ハ一月一日一街ニ於テスヘシ

但シ各取締役ハ右株式券狀ヲ當銀行ニ預ケ其
代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ
証書ヲ請取り置キ右取締役奉職中ハ決シテ之
ヲ引出スコヲ得サルヘシ

第八條 取締役ノ衆議ヲ以テ其中ヨリ一人ヲ撰
之ヲ頭取トナスヘシ此頭取及ヒ取締役ノ在職年
限ハ一ケ年ヲ以テ限リトスヘシ尤頭取取締役ヲ
ル者其任ニ堪ヘサルカ或ハ取締役等ノ三分二以

上ノ協議ヲ以テ退任セシムルハ此例ニアラス

(但シ副頭取ヲ撰任スル時モ亦本條ニ準スヘシ
尤此副頭取ハ頭取欠席スル時其事務ヲ代理ス
ルマテニシテ平日ハ取締役ト同様タルヘキ旨
ヲ掲載スヘシ)

第九條 頭取取締役等ハ銀行ノ事務ヲ取扱フヘキ
支配人并ニ書記方。出納方。計算法。簿記方等ノ諸役
員ヲ撰任シ又右ノ諸役員等ノ給料ヲ取定メ銀行
ノ得失ヲ考ヘ同僚ノ衆議ヲ經テ此役員等ヲ進退
黜陟スルノ權アルヘシ

但シ頭取取締役等ハ又銀行ノ支配人以下諸役員等ノ職掌ヲ分課シ其身元ノ引受人ヲ約シ過怠金ヲ豫定スルノ權アルヘシ

第十條 頭取取締役等ハ又向後ノ取締役撰舉ノ法ヲ定メ此撰舉ノ衆議ニ異論起ル時ハ之ヲ裁決スヘキ裁決役ヲ取定ムルノ權アルヘシ

第十一條 頭取取締役等ハ都テ銀行條例成規ノ旨趣ヲ遵奉シ適任ノ職務ヲ執行スルノ權アルヘシ尤條例成規ノ要旨ヲ遵奉シテ厚ク當銀行ノ便益ヲ謀リ萬般ノ事務ヲ注意處分スヘシ

但シ頭取取締役等ノ失職ハ國立銀行條例中ノ罰令ニ從テ各其責ニ任ス可シ

第十二條 頭取取締役等ハ當銀行ノ處務ニ緊要ナル申合セ規則ヲ議定スルノ權アルヘシ
總會ノ事

第十三條 第一次ノ總會ハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ後一箇月以内ニ取締役取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第十四條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月一日第七月一日ニ頭取取締役取極ムル所ノ場所ニ於テ

之ヲ執行フヘシ

但シ取締役ノ撰舉ハ毎年第一月ノ總會ニ於テ之ヲ決定施行スヘシ

第十五條 右總會ハ都テ定式總會ト稱シ其他ノ總會ハ都テ臨時總會ト稱スヘシ

第十六條 頭取取締役ハ何時ニテモ適當ナリト思考スルニ於テハ臨時總會ヲ招集スルヲ得ヘシ又人員十名ニ下ラス其所持ノ株數當銀行總株ノ五分一ニ下ラサル株主等ヨリ書面ヲ以テ臨時總會ノ請求アルニ於テハ何時ニテモ之ヲ招集セサ

ルヲ得サルヘシ

但シ右請求書ニハ此總會ヲ要スル事件目的ヲ記載シ之ヲ本店へ差出スヘシ

第十七條 取締役ハ右請求書ヲ受取レハ直チニ此總會ノ招集ニ取掛ルヘシ

但シ取締役右請求書ヲ受取リシ日ヨリ七日以内ニ總會招集ノ手續ニ取掛ラサルキハ其請求人等自身ニ之ヲ招集スルカ又ハ他ノ株主等ト相謀テ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

第十八條 凡ソ總會ニ於テ其事務ヲ評議處分スル

ニ當テハ必ス株主ノ總員(本人又ハ代人共)十分ノ
五以上之レニ出席スルニ非レハ(利益金分配ノ報
告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ着手スヘカラス

第十九條 若シ總會ノ刻限ヨリ一時間ヲ過キテ其
定式ノ人員臨席セサリシキハ之ヲ此會日ヨリ七
日目ニ延會シ此會ト同一ナル場所刻限ニ於テ之
ヲ執行フヘシ

第二十條 定式臨時ノ別ナク總會ノ議長ハ頭取(又
ハ副頭取)之ニ任スヘシ

第二十一條 若シ右ノ議長タルモノ總會ノ刻限ヨ

リ十五分時間ヲ過キ猶臨席セサリシキハ出席ノ
株主中ヨリ一名ヲ撰舉シテ之ヲ議長ト爲スヘシ

第二十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ決定スルニハ可
否又ハ同意不同意ナル發言投票ノ數多キモノヲ
以テスヘシ而シテ決議濟ミノ次第ヲ銀行ノ簿冊ニ
登錄シ議長之ニ記名調印シ以テ後日ノ參觀證據
ニ備ヘ置クヘシ

第二十三條 凡ソ總會ニ當リ發言投票ノ數相半ス
ルキハ議長ノ助說決票ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ
(此外總會ニ付キ緊要ナル箇條アラハ之ヲ掲載

スヘシ)

株主發言投票ノ事

第二十四條 各株主ハ其所持ノ株數十箇迄ハ一株
毎トニ一箇宛ノ發言投票ヲ爲スヘシ又十一株以
上百株迄ハ五株毎トニ一箇宛ヲ増加シ百一株以
上ハ十株毎トニ一箇宛ヲ増加スヘシ

第二十五條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂
癡其他ノ事故アレハ)代人ニテモ苦シカラス尤代
人ハ左ノ委任狀ヲ以テ其代人タラシムヘシ
(茲ニ委任狀ノ雛形ヲ掲クヘシ)

第二十六條 當銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人ト
ナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スルコトヲ得ス又
株式券狀ヲ當銀行へ借財ノ爲メ質入シタル株主
ハ自身又ハ他人ノ代人ニテモ一切發言投票ノ權
利勿カルヘシ

諸役員ノ事

第二十七條 當銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如
シ

取締役 一人

内

頭取 一人

副頭取 一人(若シ之アラハ)

支配人 一人

書記方 一人

出納方 一人

計算方 一人

簿記方 一人

(銀行ノ適宜ニヨリ此他役員ヲ設クル者ハ右ニ準シテ茲ニ掲クヘシ)

但シ當銀行創立ノ際取締役ノ撰任アル迄

ハ發起人ヲ以テ取締役ト見做スヘシ

第二十八條 頭取取締役タル者ハ當銀行營業ノ全

體ニ注意シ一切ノ事務ヲ處分シ總テ其責ニ任ス

ヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ

之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル

等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ

施行スルヲ得ス

第二十九條 支配人ハ頭取取締役ノ差圖ヲ受ケ各

掛リノ事務ヲ引請ケ其擔當ノ制限ニ依リ頭取取

締役ニ對シテ之ヲ調理スルノ責ニ任スヘシ

(右ノ外取締役ノ撰任其他凡ソ銀行ニ於テ緊要ナリトスル事件ヲ茲ニ掲載スヘシ)

營業一般事務ノ事

第三十條 當銀行ノ營業取扱時間ハ本店及ヒ支店共定式(又ハ臨時)休暇日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時迄タルヘシ

第三十一條 休業ハ例月何日及ヒ定式ノ祝日祭日ニ限ルヘシ

第三十二條 頭取取締役ノ衆議ヲ以テ決定シ當銀行ニ於テ用ウル所ノ本店(并ニ支店)ノ印章ハ即チ

左ノ如シ

一寸八分四方

――地
――名
――國立銀行
――印章

押切印

一寸

――國立銀行
――分五

――國立銀行
――緘

(此外事務取扱ノ方法ニ關スル諸規則ヲ茲ニ掲載スヘシ)

利益金分配ノ事

(茲ニ銀行ノ利益金分配ノ方法其他ヲ掲載スヘシ) 諸計算ノ事

(茲ニ諸計算ニ於ケル諸簿冊並ニ檢閲其他ノ規則ヲ掲載スヘシ)

株主ヘ報告ノ事

(茲ニ銀行ヨリ株主等ヘ報告スルノ方法ヲ掲載スヘシ)

平穩鎖店ノ事

第三十三條 當銀行三分二以上株主等ノ協議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ平穩ニ鎖店スルコトヲ得ヘシ尤其鎖店ノ手續ハ總テ國立銀行條例ヲ遵奉シテ之ヲ施行スヘシ

銀行定款更正ノ事

第三十四條 此定款ノ箇條ハ當銀行株主等ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ何時ニテモ之ヲ更正加除スルヲ得ヘシ
右ノ條々株主等ノ衆議ヲ以テ相定候其証據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號一 年一 月一 日

各株主連名印

但シ此定款ハ株主等ノ協議ニヨリテ之ヲ草定シ追テ頭取支配人等定リシ上本紙正寫ノ二通ヘ左ノ奥

書ヲ加ヘ紙幣頭へ指出スヘシ

右ノ一國立銀行定款ハ之ヲ三通ニ認メ本紙一通正
寫一通ヲ上呈シ他ノ一通ハ同文言ニテ體ニ之ヲ銀
行ニ藏メ置候仍テ其證據トシテ私共自ラ姓名ヲ記
シ調印致シ候也

年號一 年一 月一 日

一 國立銀行支配人

同

頭取

姓名印

姓名印

紙幣頭何某殿

銀行へ藏メ置クヘキ正寫ノ與書ハ左ノ如シ

右ハ一國立銀行定款本紙ノ正寫ニシテ其本紙並
ニ正寫一通ツ、ハ規則ノ通り之ヲ紙幣寮へ差上候
仍テ其證據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候
也

年號一 年一 月一 日

一 國立銀行頭取

姓名印

同

支配人

姓名印

紙

右ハ一國立銀行定款ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ

幣 察 割 印

之ヲ當察ニ受取り其事ヲ承認シタル証據トシテ余
ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本察ノ
官印ヲ鈐シ以テ其銀行ヘ下付スルモノ也

年號一 年一 月一 日

紙幣頭姓名印

紙 幣
察 之 印

但シ創立証書ハ國立銀行ヲ創立スルニ於テ政府ト其
銀行トノ約定書ニ比シキ緊要ノ書面ニシテ自ラ銀行
定款ト異ナル者ナリ銀行定款ハ全ク銀行株主等ノ取
定メタル社中ノ規則ニシテ政府ニ關係アル者ニ非ス

故ニ銀行ノ役員ヨリ株主等ニ至ルマテ苟モ此別ヲ誤
ルヘカラス

第七條 紙幣頭ハ右創立証書並ニ銀行定款ヲ相當ト思考

スルニ於テハ其開業免狀ヲ其銀行ヘ下ケ渡スヘシ然ル
後其銀行ハ始メテ名號ヲ公稱シ其業ヲ始ムルコトヲ得ヘ

シ

但シ紙幣頭ヨリ開業免狀ヲ下ケ渡サ、ル内ハ創立ニ
付テ差起ル事故及ヒ開業前緊要ナル件ヤノ外決シテ
銀行營業ノ事務ヲ取扱フヘカラス

第八條 右開業免狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

開業免狀

紙幣察割印

一 府管下第一大區一小区一村ニ於テ創立スル一
 國立銀行ヨリ差出シタル創立證書ニ據リ此銀行ハ
 大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシ
 テ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ
 付明治一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シ
 タル國立銀行條例ノ手續ヲ履行シタルヲ分明ナル
 ニ付今此開業免狀ヲ交付シ自今右條例ヲ遵奉シ國

二二八

立銀行ノ業ヲ營ムコトヲ許可スルモノ也

右ノ證據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名

調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈴スルモノ也

年號一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣
寮之印

但シ右開業免狀ヲ得タル上ハ直チニ其事業ヲ經營ス
 ルヲ得ヘキニ付火盜ノ難ヲ防カンカ爲メ堅固ナル金
 庫ヲ建築スヘシ

○株金募方ノ事

第九條 株金ヲ募ルノ法ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ

世上ニ公告スヘシ即チ何府縣管下第何大區何小區何町村何

番地ニ於テ何々ノ方法ヲ以テ國立銀行ヲ創立スルニ付

其組合ニ加入セント欲スル人々ハ何月何日ニ何街何屋

ニ來ルヘシ發起人何ノ誰々等ト記載スヘシ

第十條 當日ニ至ツテ右何街何屋ニ於テ發起人等簿冊ヲ

開キ其銀行ノ組合ニ加入セント申込ミタル人々ノ姓名

並ニ入金スヘキ金額ヲ其簿冊ニ書込ニ何月何日迄ニ入

金スヘキ旨ヲ取定ムヘシ

第十一條 入金ノ當日ニ至テ入金者ハ各其簿冊ニ書込ニ

タル金額ヲ其發起人方へ持參スヘシ而シテ其發起人等ハ
其金子引替ニ左ニ掲載セル入金受取証書ヲ其入金者へ
渡スヘシ

但シ此書込ニテ集金ノ員額發起人等ノ見込員額ヨ
リ多キキハ割引ヲ以テ入金者ノ出金員額ヲ減少スル
カ又ハ銀行ノ資本金額ヲ最初ノ見込ヨリ増加スルト
モ其發起人等ノ存意ニ任スヘシ

半高入金受取証書

割印

一金一圓也

右ハ今般創立ノ一ノ國立銀行株式ノ内一株ノ半高
一株ニ付キ一圓ノ割合ヲ以テ最初ノ入金トシテ書
面ノ通正ニ落手致シ候右株式券狀ハ追テ總月賦入
金相濟候上ニテ交付可致候仍テ爲後証如件

年號一ノ年一ノ月一ノ日

一ノ國立銀行發起人

連名印

何某殿

○資本金月賦入金ノ事

第十二條 國立銀行ノ資本金ハ開業前必ス其半高ヲ株主
等ヨリ銀行へ入金シ残り半高ハ五箇月ニ割合ヒ之ヲ入

金スヘシ

例へハ資本金拾萬圓ノ銀行ナレハ

一月十五日開業迄ニ入金高	五萬圓
二月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
三月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
四月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
五月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
六月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
合計拾萬圓	

右ノ如ク開業ノ日ヨリ算シテ毎月入金スヘシ尤六箇月

前ニ悉ク入金シ又ハ開業前ニ資本金總額ヲ入金スルハ
其銀行ノ適宜タルヘシ但シ銀行ニ於テ右月賦入金ヲ請
取ルキハ左ノ請取証書ヲ株主へ渡スヘシ

第一回月賦入金請取證書

割 一 金 一 圓 也
印

右ハ當一一國立銀行株式ノ内一番ヨリ一番マテ一
株ノ第一回月賦入金一株ニ付一圓ノ割合ヲ以テ書
面ノ通正ニ落手致候右株式券狀ハ追テ總月賦入金
相濟候上ニテ交附可致候仍テ爲後証如件

年號一年一月一日

一一國立銀行支配人

銀行
之 印

同

姓名 印

頭取

姓名 印

何某殿

○資本金集合高申牒ノ事

第十三條 株主等ヨリ月賦金ヲ其割合ニ從ヒ入金スルキ

ハ其月賦總入金濟迄ハ毎月其銀行ヨリ資本金集合高届
書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金集合高届書

一 府管下第一大区一小区一村ニ創立シタル一國
 立銀行ノ資本金トシテ一萬一千圓ノ第一回月賦ヲ
 株主等ヨリ入金イタシ是迄ノ入金ニ加算シ總高一
 萬一千圓ト相成候也

年號一 年一 月一 日

一 國立銀行支配人

銀行
之印

同

姓名印
頭取
姓名印

紙幣頭何某殿

○資本金増減ノ事

第十四條 國立銀行ハ條例第四十條ニ準據シ其資本金額

ヲ増加スルキハ速カニ資本金増加証書ヲ紙幣頭へ差出
 スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金増加証書

一 府管下第一大区一小区一村一 國立銀行

元株數并金額	増株數并金額	合計	住所	姓名
一 株 一 円	一 株 一 円	一 株 一 円	府管下第一大区一小区一 村	一 華士族平長 何某
合 一 株 一 円	合 一 株 一 円	總計 一 株 一 円		

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金増加仕候現額書面

ノ通相違無之候也

年號 一年一月一日

—— 國立銀行支配人

銀行
之印

同

姓名印
頭取
姓名印

紙幣頭何某殿

右之通相違無之候也

地方長官姓名印

地方官
廳之印

紙幣寮

右—— 國立銀行資本金增加證書ヲ差出スニ付年號
一年一月一日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シ

割印

タル證據トシテ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印
ヲ鈐スルモノ也

年號 一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣
寮之印

但シ右ノ書面ヲ差出サハ紙幣頭ハ奥書并ニ鈐印シテ
之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ銀行ハ此奥書ヲ得タル上ニ
テ公債証書ヲ預ケ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ニ取掛ル
ヘシ

第十五條 國立銀行ハ條例第四十二條ニ準據シ其資本金

ヲ減少スルキハ諸般ノ手續ヲ經テ後チ紙幣頭へ其資本
金減少証書ヲ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ減少ノ手續ハ其銀行紙幣ヲ紙幣寮ニ返上シテ燒
捨ノ手續ヲナシ其同額ノ公債証書ヲ紙幣頭ノ手ヲ經
テ出納頭ヨリ取戻スヘシ而シテ其準備金モ亦之ニ準
シテ減少スヘシ

資本金減少証書

府 縣管下第 大區 小區 町 村 國立銀行

減少株數并金額	殘株數并金額	住	所	姓	名
---------	--------	---	---	---	---

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金減少仕候高并ニ殘
現額共書面ノ通相違無之候也

年號 年 月 日

國立銀行支配人

株 圓	株 圓	府 縣管下第 大區 小區 町 村	府 縣 華士族平民
合 株 圓	合 株 圓		何 某

銀行
之印

同

姓名印
頭取
姓名印

紙幣頭何某殿

右之通相違無之候也

地方長官姓名印

地方官
廳之印

紙幣察割印

右一 國立銀行資本金減少證書差出スニ付年號一
年一月一日余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタ
ル証據トシテ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ

鈴スルモノ也

年號一 年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣
寮之印

右増減証書ハ各二通宛ヲ紙幣寮ニ出シ其一通ハ前ノ
文例ノ如ク紙幣頭與書鈴印シテ其銀行へ下付スヘシ

○公債証書預方ノ事

第十六條 國立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニ四朱以上利
付ノ公債証書ヲ買入レ之ヲ出納頭ニ預クヘシ右ハ其銀

行ヨリ發行スヘキ紙幣ノ抵當ナレハ其銀行ノ資本金額十分八ノ割合ニシテ即チ銀行ニ受取ルヘキ銀行紙幣ト同額タルヘシ(條例第十八條二十二條ヲ參考スヘシ)

第十七條 出納頭ハ右公債証書ヲ領受シ直チニ假請取書ヲ其銀行ヘ下付シ追テ紙幣頭連名ノ本請取証書ヲ製シ其假受取書ト引換フヘシ

○銀行紙幣注文ノ事

第十八條 國立銀行ハ右公債証書ノ請取書ヲ領受セハ其銀行ヨリ發行スヘキ銀行紙幣ノ受取方ヲ頭取支配人ヨリ注文書ヲ以テ紙幣頭ヘ申立ツヘシ其文例ハ左ノ如シ

二九

但シ條例第四十六條ニ準據シテ此注文書ヲ差出ス可シ

銀行紙幣注文書

一 府 縣 管 下 第 一 大 區 一 小 區 一 町 一 村 一 創 立 シ タ ル 一 國 立 銀 行 一 於 テ 國 立 銀 行 條 例 一 從 ヒ 一 萬 一 千 圓 ノ 銀 行 紙 幣 ヲ 發 行 致 シ 度 一 付 左 一 掲 載 ス ル 種 類 員 額 ノ 紙 幣 製 造 ノ 上 御 渡 被 下 度 候 也

銀行紙幣種類	枚	數	金	額
--------	---	---	---	---

右銀行紙幣ノ抵當トシテ出納頭ニ預ケタル公債証書ノ現額ハ左ノ如シ

			圓	圓	圓
			圓	圓	圓
合	一	一	枚	枚	枚
合	一	一	圓	圓	圓

右之趣謹テ奉願候也

年號一 年一 月一 日

一 一 國立銀行支配人

		圓枚	公債証書圓枚	公債証書ノ種類 金額枚數
		一	一	利
		朱	朱	息
		百圓ニ付 一圓	百圓ニ付 一圓	實價割合
合	計	一	一	金
		一	一	額
合	計	一	一	圓

銀行印之

同

姓名印
頭取
姓名印

紙幣頭何某殿

第十九條 右銀行紙幣ノ注文書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ條例第四十七條ニ準據シ銀行紙幣ヲ製造シテ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ而シテ其銀行ハ之ヲ受取リテ後チ受取証書ヲ差出ス可シ其文例ハ左ノ如シ

銀行紙幣請取証書

銀行紙幣種類	圓	圓	枚	數	金額
	圓	圓	枚	枚	圓
合計	圓	圓	枚	枚	圓

右ハ當一國立銀行發行紙幣トシテ正ニ請取候也

年號一 年一 月一 日

一 國立銀行支配人

銀行印之

同

頭取
姓名印

紙幣頭何某殿

〇銀行紙幣發行ノ事

第二十條 國立銀行ニテ右銀行紙幣ヲ領受スルニ於テハ
 頭取支配人ノ兩人一々其紙幣ノ表面ニ其役名及ヒ姓名
 ヲ記入シ其役印ヲ押捺シテ後チ之ヲ世上ニ發行スヘシ
 若シ其記入押捺ノ際損傷等ノモノアルニ於テハ更ニ其
 趣ヲ紙幣頭ニ申立テ其損傷紙幣ヲ納メテ引替ヲ乞フ可
 シ
 但シ頭取支配人ハ其印影ヲ紙幣頭ヘ差出シ其紙幣押
 印ノ用肉ヲ紙幣寮ヨリ受取ルヘシ
 〇損壞銀行紙幣引替方ノ事

第二十一條 國立銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣敗裂汚染

等ニテ通用シ難キモノアルキハ條例第五十一條ニ準據
 シ頭取支配人ヨリ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣頭ニ差出シテ其
 引換ヲ請フヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ記名押印ノ際損傷シタル銀行紙幣ノ引換モ亦
 タ此例ヲ以テ申立ヘシ

記

銀行紙幣種類	枚	數	金	額
圓	一	枚	一	圓

右ハ當銀行發行紙幣ノ内敗裂(或ハ汚染)ニテ通用難
相成分書面之通差上候處相違無之候

					圓
					枚
合計	—	—	—	—	圓
合計	—	—	—	—	圓

紙幣頭ハ右敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ請取ラハ其代リ
新銀行紙幣ヲ以テ之ヲ其銀行ニ下附スヘシ

右敗裂(或ハ汚染)ノ銀行紙幣ハ國立銀行條例ノ規定
ニ從ヒ燒捨ノ立合可仕候尤燒捨濟ノ上右同種同額
ノ新銀行紙幣ヲ御渡シ可被下候此段奉願候也

年號 一 年 一 月 一 日 一 一 國立銀行支配人

姓名印

同

頭取

姓名印

銀行
之印

紙幣頭何某殿

第二十二條 紙幣寮ニ於テ右銀行紙幣ヲ燒捨ノ節ハ其趣
 ヲ銀行へ通達アルヘキニ付銀行ハ立合人ヲ紙幣寮ニ差
 出シ燒捨所ニ於テ立合實驗ノ上燒捨証書ニ記名調印ス
 ヘシ尤此燒捨証書ハ二通ニ認メ一通ハ紙幣寮ニ藏メ一
 通ハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ右ノ立合ニハ大藏省ニ關
 係ナキ人ヲ撰テ銀行ヨリ差出スヘシ
 但シ遠隔ノ地方ニ創立シタル銀行ハ東京ニ於テ豫テ
 燒捨ノ立合人ヲ賴置キ其姓名住所ハ之ヲ紙幣寮ニ届
 ケ置クヘシ

第二十三條 國立銀行ヨリ引換ノ爲メニ紙幣寮ニ差出ス

ヘキ敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ハ五百圓以上ノ高タルヘ
 シ其銀行紙幣ハ消印ヲ押シ種類ヲ分チ其封套ニ其金額
 ヲ記載シ前第二十一條ニ掲クル所ノ書面ヲ添ヘ之ヲ紙
 幣寮へ差出スヘシ尤此紙幣引替ニ付往復運送ノ諸費用
 ハ銀行之ヲ辨スヘシ
 但シ數片ニ細裂シタル銀行紙幣アラハ銀行ノ役員之
 ヲ連接シテ差出スヘシ
 第二十四條 敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ其銀行ニ持參シ
 引換ヲ乞フ者アラハ銀行ノ役員ハ其金額ノ數位ニ注目
 検査シテ之ヲ引換フヘシ尤敗裂シテ其紙片ノ全備セサ

ルモノト雖大藏卿ノ印章アルニ於テハ之ヲ引換フヘ
シ

○株式ノ事

第二十五條 國立銀行ノ株主タルモノハ其所持スル所ノ
株金總入金濟ミトナリタル時ハ社印ヲ鈐シタル株式券
狀ヲ一株ニ付一通宛領受スルノ權利アルヘシ其株式券
狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番
割印 大日本一地名一國立銀行株式券狀

表

面

一 府管下第一大区一小区一村一番地何某殿儀大日
本帝國政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ
遵奉シ且ツ當銀行ノ定款ヲ確守シ年號一一年一月一
日ヨリ我一一國立銀行株式ノ内一百五十圓即チ一株ノ
持主タルコト相違無キ証據トシテ此株式券狀ニ當銀
行ノ印章ヲ押捺シ之ヲ附與スルモノ也
此株式券狀ヲ賣却讓與セント欲セハ當銀行ヘ持參
スヘシ銀行ニ於テ至當ノ検査ヲ遂ケ此券狀裏面ノ
梓内ヘ頭取支配人記名調印ノ上之ヲ差戻スヘシ
年號一一年一月一日 一國立銀行頭取

銀行
之印

同

支配人
姓名印

裏

					年號月日
					賣渡人記名調印
					買受人記名調印
					頭取記名調印
					支配人記名調印

面

第二十六條 若シ右株式券狀磨滅敗裂等ノコアルハ其

趣ヲ書面ニ認メ之カ書替ヲ乞フヘシ若シ又燒亡紛失ス

ルコアレハ其事實ヲ明瞭ニ認メ二人以上ノ證人ヲ立テ

各之ニ記名調印シ更ニ新株式券狀ノ受取方ヲ乞フヘシ

但シ株式券狀ヲ書替フル等ノ時ハ銀行ヨリ差圖スル

所ノ手數料ヲ拂フヘシ

○株式賣買ノ事

第二十七條 株式ヲ賣買スルニハ之ヲ證書ヲ製シ賣渡人
 買受人ノ雙方相當ナル證人ノ眼前ニ於テ之ニ連印シ株
 式券狀ト共ニ之ヲ銀行へ差出スヘシ而シテ頭取支配人ハ
 兼テ備置キタル株式賣買ノ簿冊へ其顛末ヲ登記シ其株
 式券狀ノ裏面へ記名調印シ併セテ右證書株式券狀ノ間
 ニ割印ヲ押捺シ再ヒ其株式券狀ヲ其人々へ渡スヘシ但
 シ右ノ手數相濟ム迄ハ賣渡人ヲ以テ右株式ノ持主ト定
 ムヘシ

第二十八條 右株式賣買證書ノ文例ハ左ノ如シ

株式賣買證書

二〇〇

一 國立銀行株式ノ内第一番(或ハ第一番ヨリ一
 迄)一株ノ株式何某(茲ニ賣渡人ノ姓名ヲ掲ク)所持ノ
 分代金一圓ニテ今般何某(茲ニ買受人ノ姓名ヲ掲
 ク)へ賣渡シ書面ノ金額受取渡シ相濟候處實正也然
 ル上ハ向後買受人ハ勿論其相續人後見人ニ於テモ
 之ヲ所持シ何某(賣渡人ノ姓名)所持中ト同様ノ規約
 ヲ遵守スヘシ仍テ證書如件

年號一 年一 月一 日

府管下第一 大區一 小區一 町一 番地

賣渡人 姓名 印

府管下第一 大區一 小區一 町一 番地

買受人 姓名 印

府 縣管下第一大区 小區 町 村 番地

證人 姓名 印

—— 國立銀行

御中

第二十九條 右株式賣買ノ簿冊ハ每半季定式總會以前日
數十五日ノ間ハ之ヲ閉鎖シ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ其
趣ヲ世上ニ公告シテ一切其事ノ取扱ニ從事セサルコトヲ
得ヘシ

○株式讓與ノ事

第三十條 銀行株主ノ内死去スル者アリテ其相續人若ク
ハ後見人ノ右株式ヲ讓受クヘキモノハ銀行ノ要求セル
然ルヘキ証據ヲ差出シタル上ニテ其銀行ノ株主トシテ
株主牒ノ記載ニ入ルコトヲ得ヘシ

○株式没入ノ事

第三十一條 銀行ノ株主等若シ株金ノ月賦入金ヲ怠ル時
ハ頭取取締役等ハ條例第三十二條第三十三條ニ準據シテ
之カ處分ヲナスヘシ

○總會ノ事

三八四 第三十二條 第一次ノ總會ハ銀行其開業免狀ヲ受ケシヨ

リ以後三箇月以内ニ於テ其頭取取締役ノ取極メタル時
日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第三十三條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月第七月(何レ
モ然ルヘキ日ニ於テ)頭取取締役ノ取極ムル所ノ時日場
所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第三十四條 凡ソ總會ハ定式臨時ノ二様ニ分チ前條ニ掲
載シタル總會ヲ定式總會ト稱シ此總會ニ於テハ總勘定
ニ於ケル正算指示ノ事並ニ利益金分配ノ事及ヒ頭取支
配人ヨリ差出ス所ノ平常處務ノ顛末ヲ記載シタル書類
ヲ稽查審按スル等ノ事ヲ施行スヘシ其他ノ總會ヲ臨時

總會ト稱シ臨時ニ起ル所ノ事件ヲ評議處分スヘシ

第三十五條 凡ソ總會ヲ執行ハントスルニ當ツテハ其取
極メタル時日場所ヲ報告書ニ記載シ(若シ格段決議ニ付
スヘキ事件アレハ其大旨ヲモ加載シ)少ナクトモ日數七
日以前ニ於テ之ヲ總株主ヘ通知スヘシ而ソ右ノ如ク手
數ヲ爲セシ上ハ假令ヒ株主ノ内右報告書ヲ受承セサル
モノアルトモ此總會ノ手順ニ於テハ既ニ盡セシモノト
爲スヘシ

但シ銀行ヨリ株主ヘ報告スルノ書類ハ之ヲ直達スル
カ又ハ郵便其他ノ手續ヲ以テスルモ都テ銀行ノ便宜

ニ任スヘシ

第三十六條 銀行ノ頭取取締役ニ於テ適當ナリト思考スルカ又ハ株主ノ人員十名ニ下ラスシテ其所持ノ株數總株ノ五分一以上ニ及フモノヨリ之ヲ請求スルカニ於テハ何時ニテモ臨時總會ヲ執行フコトヲ得ヘシ

第三十七條 右株主等ノ請求ハ之ヲ書面ニ認メ此總會ヲ請求スル所以ノ目的事件ヲ詳載シ郵便其他ノ手續ヲ以テ之ヲ頭取取締役ヘ送達スヘシ

第三十八條 頭取取締役ハ右請求書ヲ領受セハ直チニ其總會招集ノ事ニ取掛ルヘシ若シ取締役右請求ヲ承知セ

シ日ヨリ日數七日ノ内ニ招集ノ手續ヲナサ、ルキハ右請求人等自身ニ之ヲ招集スルカ又ハ其他ノ株主等ト相謀テ之ヲ招集スルヲ得ヘシ

第三十九條 凡ソ總會ニ於テ事務ヲ評議處分スルニ當ツテハ必ス株主ノ總員(本人又ハ代人共)十分ノ五以上之ニ出席スルニ非サレハ(利益金分配ノ報告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ評議處分スヘカラス

第四十條 凡ソ總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取)之ニ任スヘシ

第四十一條 右議長若シ會集スヘキ刻限ヨリ十五分時間

ヲ過キ猶ホ臨席セサリシキハ出席株主等ノ内ヨリ一人
ヲ公撰シ以テ議長ト爲スコヲ得ヘシ

第四十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルニハ(可否又ハ
同意不同意ノ發言若シクハ投票ニテモ)其說ノ多數ニ因
リ以テ之ヲ決定シ其次第ヲ簿冊ニ登録シ併セテ其決議
濟ミノ旨ヲ加載シ其節ノ議長之ニ檢印シ以テ後日ノ參
觀證據ニ備ヘ置クヘシ

第四十三條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルニ若シ發言投
票ノ數相半ハスルキハ議長ノ助說若シクハ決票ヲ以テ
之ヲ裁決スヘシ

○株主發言投票ノ事

第四十四條 銀行ノ株主等ハ各其所持セル株數十箇迄ハ
一株毎トニ一箇宛ノ發言投票ヲナスヘシ又十一株以上
百株迄ハ五株毎トニ一箇宛ヲ増加シ百一株以上ハ十株
毎トニ一箇宛ヲ増加スルコト定ムヘシ

第四十五條 凡ソ銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリ
テ發言投票スルノ權利ヲ有スルコトヲ得ス又株式券狀ヲ
借財ノ爲メ其銀行へ質入シタルモノハ總會ニ於テ自身
又ハ他人ノ名代ニテモ一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

第四十六條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂癡其他

ノ事故アルニ於テハ代理人何レモ勝手タルヘシ尤代人ハ其銀行ノ株主中ノ者ニ限リ之ニ委任狀ヲ與ヘ以テ之ヲ差出スヘシ若シ其代人ヲ差出サスシテ決議ノ後如何ナル異議アルトモ一切之ヲ申立ツルコトヲ得サルヘシ

第四十七條 右代人委任狀ノ雛形ハ左ノ如シ

委任狀ノ事

年號 一 年 一 月 一 日 一 一 國立銀行ノ定式(又ハ臨時總會及ヒ其延會ニ於テ何某ヲ拙者代人トシテ發言投票爲致候仍テ委任狀如件

年號 一 年 一 月 一 日 一 一 國立銀行株主

姓名 印

一 一 國立銀行

御中

○諸役員ノ事

第四十八條 國立銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役 何人

内

頭取 一人

副頭取 何人(若シ之アラハ)

支配人	何人
書記方	何人
出納方	何人
計算方	何人
簿記方	何人

但シ右ノ如ク制定スト雖モ銀行ノ便宜ニ依リ之ヲ廢置兼攝シ若シクハ其他ノ役員ヲ設置スルヲ得ヘシ尤取締役ノ人員ハ(頭取副頭取ヲ加ヘ)都合五名ヨリ減少スヘカラス故ニ若シ右ノ定員ヨリ欠クル時ハ株主一同ノ協議ヲ以テ速カニ其欠ヲ補フヘシ

第四十九條 國立銀行ノ頭取取締役タル者ハ其銀行營業ノ全體ニ注意シ實際ノ事務ヲ處分シ總テ其責ニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ス

第五十條 取締役ハ同僚中ヨリ(入札公撰ヲ以テ)其人ヲ撰舉シテ頭取(又ハ副頭取)ト爲スヘシ此頭取ハ銀行ノ事務ヲ總判シ及ヒ會議ノ席ニ於テ議長ノ職ニ任スヘシ但シ副頭取ハ頭取欠席スルモ其事務ヲ代理スル迄ニシテ平日ハ取締役ト同様ノ職任タルヘシ

第五十一條 左ニ掲ケシ人々ハ取締役タルヲ得ヘカラス

第一 銀行ニ於テ三十株又ハ六十株以上ヲ所持セサル株主

但シ資本金拾萬圓以上ニシテ一株百圓ノ銀行ナレハ三十株一株五拾圓ノ銀行ナレハ六十株又資本金拾萬圓未滿五萬圓以上ニシテ一株五拾圓ノ銀行ナレハ三十株一株二十五圓ノ銀行ナレハ六十株ノ割合タルヘシ

第二 一旦破産ニ遇ヒシ株主

第五十二條 取締役ノ人員三分二ハ本店設立ノ地方ニ於

テ少ナクトモ一箇年間住居セシモノタルヘシ

第五十三條 各取締役ハ其所持ノ株式券狀三十箇又ハ六十箇(前第五十一條中第一項ニ掲クル所ノ割合)ヲ其銀行ニ預ケ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ証書ヲ請取リ置キ右取締役ノ奉職中ハ決シテ之ヲ引出スコトヲ得サルヘシ

第五十四條 頭取取締役タリトモ株主一同ノ協議ニテ取極メタル給料旅費及ヒ賞與金手當并ニ株主ノ場ニテ受取ルヘキ分配利益金ノ外自餘ノ所得ヲ受クルコトヲ得サルヘシ

第五十五條 取締役ノ撰舉ハ定式總會ニ於テ株主一同ノ
投票ヲ以テ之ヲ撰舉スヘシ尤不時ニ欠員アルキハ臨時
總會ニ於テ之ヲ撰舉スヘシ

第五十六條 右ノ總會ニ於テ撰舉セラル、所ノ取締役ハ

直チニ誓詞ニ通ヲ認メ其地方長官ノ面前ニ於テ調印シ
本紙ハ紙幣頭ニ差出シ寫一通ハ其銀行ニ藏メ置クヘシ
其文例ハ左ノ如シ

頭取締役ノ誓詞

府管下第一大区 | 小区 | 町 | 村ニ於テ創立シタル |

三二

国立銀行ノ取締役何某謹テ左ノ條々ヲ誓フ

私儀ハ | 府ノ華士族ニシテ | 府管下第一大区 | 小

区 | 町 | 村ニ居住イタスニ相違無之事

當銀行ノ事務ヲ處分スルニ付私關係ノ職掌ハ忠實
ニ取扱フヘキ事

私在職中國立銀行條例成規ノ旨趣ハ一箇條タリト

モ決シテ犯ス間敷又他人ヲシテ犯サセ間敷事

国立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ私儀當銀行資本金

中ノ三十株ハ自力ヲ以テ所持スルニ相違無之事

右ノ株式券狀ハ国立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ當

銀行へ預け置キ在職中ハ決シテ引出ス間敷候事
府 | 縣管下第 | 大區 | 小區 | 町 | 村 | 國立銀行 | 頭取
取締役
年號 | 年 | 月 | 日 書面ノ者余カ面前ニ於テ調印シ
誓約致シ候事相違無之候也

地方官
廳之印

地方長官姓名印

但シ此誓詞ハ取締役等各通タルヘシ

第五十七條 銀行ノ頭取支配人ノ撰舉サレタル時ハ新任
ノ印影ヲ添へ上任ノ報告ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例

ハ左ノ如シ

但シ最初撰舉ノ時差出ス所ノ上任報告ニハ文例中元
役ヲ除クハ勿論タルヘシ

上任報告

當 | 月 | 日 何某儀ハ當國立銀行ノ頭取ニ選ハレ何
某儀ハ支配人ニ命セラレ其印鑑ハ別紙ノ通ニ候也
年號 | 年 | 月 | 日 | 國立銀行

銀行
之印

元支配人 姓名印
元頭取 姓名印
新支配人 姓名印
新頭取 姓名印

紙幣頭何某殿

用紙美濃豎七寸幅二寸

年號一年一月一日何某代リ

何役撰舉

府華士族平民

姓名

一年一月

銀行之印



宿所

第五十八條 頭取取締役ハ其職務ヲ舉ル爲メ少クモ毎月三度以上同僚中ノ集會ヲ爲シ以テ其事務ヲ評議處分スルヲ得ヘシ而シテ此集會ノ體裁方法ハ總會ノ手續ニ準

據シ銀行ニ於テ然ルヘキ規程ヲ立テ以テ之ニ從事スヘシ

第五十九條 頭取取締役在職ノ年限ハ一期必ス滿一箇年タルヘシ而シテ退役放免等ノ外ハ奉職ノ年限中必ス勤仕スルモノト爲スヘシ

但シ頭取取締役ノ在職年限ハ本條掲クル所ノ如シト雖モ其滿期ニ至リ更ニ入札公撰ヲ以テ重年上任スルヲ得ヘシ尤重年上任シタルモハ第五十六條五十七條ニ準據シ更ニ誓詞并ニ上任報告ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第六十條 支配人以下ノ撰舉並ニ給料等ハ頭取取締役ノ意見ニ因リ之ヲ取極ムヘシ尤支配人ハ銀行ノ事業ヲ處分スル重任ナレハ株主ニ非ル者ニテモ須ラク熟練ノ人ヲ撰フヘシ且其他ノ役員モ亦他人ヲ雇入ルハ其銀行ノ便宜ニ任スヘシ

○社中申合規則ノ事

第六十一條 頭取取締役ハ其同僚ノ衆議ヲ盡シ利益金分配ノ手續諸役員ノ權限分課給料旅費ノ定則及ヒ其褒貶進退其他一切緊要ナル事件ヲ適宜掲載シタル社中申合規則ヲ議定スヘシ尤右申合規則ハ條例成規ノ旨趣ニ背

戻シサルハ勿論タリト雖其社中ノ申合ニ止ルヲ以テ更ニ紙幣頭へ差出スニ及ハサルヘシ

○利益金分配ノ事

第六十二條 頭取取締役ハ(株主ノ總會ヲ經テ)銀行ノ利益金ヲ株主銘々所持ノ株高ニ應シテ割渡スヘキ旨ヲ總株主へ報知スヘシ

○諸計算ノ事

第六十三條 銀行ノ出納其他一切ノ計算ニ關スル諸簿冊ハ紙幣頭差圖スル所ノ書式ニ從ヒ明細嚴肅ニ記入スヘシ

第六十四條 頭取取締役ハ每半季考課狀及ヒ出納ノ明細書ヲ製シ總會ニ於テ之ヲ株主一同ヘ明示スヘシ

○諸願伺届等差出方ノ事

第六十五條 銀行ノ諸願伺届報告其他凡ソ諸官廳ヘ差出スヘキ一切ノ文書ハ必ラス本紙一通正寫一通都合二通宛タルヘシ

○國立銀行報告ノ事

第六十六條 國立銀行ハ銀行條例第七十七條ニ準據シ紙幣頭差圖スル處ノ書式ニ從ヒ半季及ヒ毎月其銀行營業ノ實際報告ヲ製シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ其報告ノ種

類ハ左ノ如シ

但シ右報告用紙ハ相當ノ代價ヲ以テ紙幣寮ヨリ拂下クヘシ

第一 銀行半季考課狀

第二 銀行半季實際報告

第三 銀行半季利益金割合報告

第四 銀行半季平均高報告

第五 銀行年中平均高報告

第六 株主姓名表

右六種ノ報告ハ第一月十日第七月十日マテニ紙幣頭ヘ

差出スヘシ尤遠隔ノ地方ニ本店又ハ支店ヲ設置シタル
銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ

第七 銀行本店毎月實際報告

第八 銀行支店毎月實際報告

右二種ノ報告ハ毎月五日マテニ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤
遠隔ノ地方ニ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘ
シ但シ支店毎月報告ハ其本店ヲ經ルニ及ハス其支店ヨ
リ直チニ紙幣頭ヘ差出スヘシ右ノ外紙幣頭ノ考按ニヨ
リ臨時實際ノ報告ヲ差出サシムルコアルヘシ尤右臨時
報告ノ差出方ハ其時々紙幣頭ヨリ命スヘシ

右之通相定候事

明治九年八月一日

太政官

第四章 銀行證券

第一款 銀行紙幣

〔布告〕九年一月廿五日第五國立銀行ノ儀ハ是迄本店ヲ大坂ニ設
 ケ支店ヲ東京ニ置キ其發行銀行紙幣ヲ引換致シ來リ候處
 今般右本支兩店其地ヲ易ヘ東京第壹大區拾四小區蠣殼町
 壹丁目ヲ本店トシ大坂第三大區拾小區立賣堀北通五丁目
 ヲ支店トシ從來ノ通營業候旨届出候條此旨布告候事

〔指令〕九年九月廿九本年第六號ヲ以御布告〔第二章〕相成
 候國立銀行條例ノ趣旨ヲ遵奉シ第一國立銀行ヨリ創
 立出願候ニ付願意聞届己ニ開業免狀下附致候間銀行

紙幣發行ノ儀今般更ニ許可致シ別紙ノ通布達致度且
 爾來創立願出候分モ同様可及布達候間此段併テ相伺

置候也〔別紙ハ下ノ甲第廿
 一號布達ニカ、ル〕

十月五日
 指令ノ通

〔改布達〕九年十月十日大本年八月一日第六號ヲ以テ布告
 藏省甲第廿一號
 相成候國立銀行條例ノ趣旨ヲ遵奉シ銀行創立ノ儀第一國
 立銀行ヨリ出願候ニ付願意聞届九月二十六日開業免狀ヲ
 下付シ銀行紙幣發行セシメ同銀行東京本店ニ於テ通貨ヲ
 以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租
 稅其他一切公私ノ取引ニ於テ總テ無疑念受授可致此旨布

達候事

但銀行紙幣ノ儀ハ最前發行ノ紙幣ヲ相用候ヘトモ頭取
支配人ノ名印ヲ朱消シ更ニ當任ノ頭取支配人ノ名印ニ
改メ候事

〔指令〕九年十一月七日 今般第一國立銀行發行紙幣抵當トシ

テ資本金八割ノ公債証書差出シ條例第四章四十六條
但書ニ照準シ請取紙幣總額十分ノ五ハ五圓以上ノ種
類他ノ十分ノ五ハ五圓以下ノ券ニテ下附可致成規ニ
候處右五圓以上ノモノハ其額大ニシテ實際交通ニ不
便ノ趣ヲ以右ノ割合ヨリハ八萬三千三百四十圓ノ金

高ヲ五圓以下ノモノニテ餘分ニ下附相成度旨同銀行
ヨリ願出事實不得止儀ニ有之右ハ唯種類ノ異ナルノ
ミニテ總額ニ於テハ差異無之ニ付願意聞届可申ト存
候且各銀行ヨリ右同様ノ願請有之節ハ不經伺聞届可
申ト存候此段併テ相伺

十一月十日通

〔改〕布 達 九年十月二十二日大本年八月一日第百六號ヲ以テ布

告相成候國立銀行條例ノ趣旨ヲ遵奉シ銀行創立ノ儀第五
國立銀行ヨリ出願候ニ付願意聞届本月五日開業免狀下付
シ銀行紙幣發行セシメ東京第一大區拾四小區蠣殼町壹丁

目壹番地ニ在ル同銀行本店於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條
公債証書利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取
引ニ於テ總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但シ銀行紙幣ノ儀ハ最前發行ノ紙幣ヲ相用候事

〔改〕布達九年十二月二十五日本年八月一日第百六號ヲ以テ布

告相成候國立銀行條例ノ趣意ヲ遵奉シ銀行創立ノ儀第二

國立銀行ヨリ出願候ニ付願意聞届十一月廿八日開業免狀

ヲ下附シ銀行紙幣發行セシメ神奈川縣下第一大區一小區

橫濱本町三丁目五拾三番地ニ在ル同銀行本店ニ於テ通貨

ヲ以テ交換爲致候條公債証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外

三三

租稅其他一切公私ノ取引ニ於テ總テ無疑念受授可致此旨
布達候事

但銀行紙幣ノ儀ハ最前發行ノ紙幣ヲ相用サセ候事

〔改〕布達九年十二月九日今般國立銀行條例ノ旨趣ヲ遵奉

シ東京府管下第一大區十四小區小舟町三丁目拾番地ニ設

立シタル第三國立銀行ニ於テ公債証書ヲ抵當トナシ更ニ

引換ノ準備金ヲ置キ貳拾圓拾圓五圓貳圓壹圓五種ノ紙幣

ヲ發行セシメ右本店ニ於テ通貨ヲ以テ交換爲致候條公債

証書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引

上總テ無疑念受授可致此旨布達候事

但右紙幣ノ儀ハ明治六年八月第三百四號布告第一國立
銀行ニ於テ發行ノ品ト同様ニシテ唯表面銀行ノ名號地
名及頭取支配人ノ名印并ニ裏面割印ノ異ナル耳ニ付別
段見本相添ヘサル事

〔改〕布達九年十二月廿五日本年八月一日第百六號ヲ以テ御
大藏省甲第三拾號
布告相成候國立銀行條例ノ趣旨ヲ遵奉シ銀行創立ノ儀第
四國立銀行ヨリ出願候ニ付願意聞届本月十九日開業免狀
下附シ銀行紙幣發行セシメ新潟縣下第壹大區小貳區新潟
町東堀前通七番町四百貳拾四番地ニ在ル同銀行本店於テ
通貨ヲ以テ交換爲致候條公債証書利息ト海關稅ヲ除クノ

外租稅其他一切公私ノ取引ニ於テ總テ無疑念受授可致此
旨布達候事

但シ銀行紙幣ノ儀ハ最前發行ノ紙幣ヲ相用候事

第二款 爲替證券 闕

第六卷 海運

第一章 船舶所持

第一款 總則

〔達〕九年三月廿七 官廳所轄及人民所有ノ西洋形瀛船帆船ニ
日第三十號 相用候旗章別紙雛形ニ照準取調正副二通早々海軍省へ可
届出此旨相達候事

但自今本文ノ船舶増減及所轄替等ニテ旗章改正又ハ廢
止ノ節ハ其都度同省へ可届出事

人民所有ノ船旗届書式ニ但官廳所轄ノ分モ之
準シ取調フヘシ

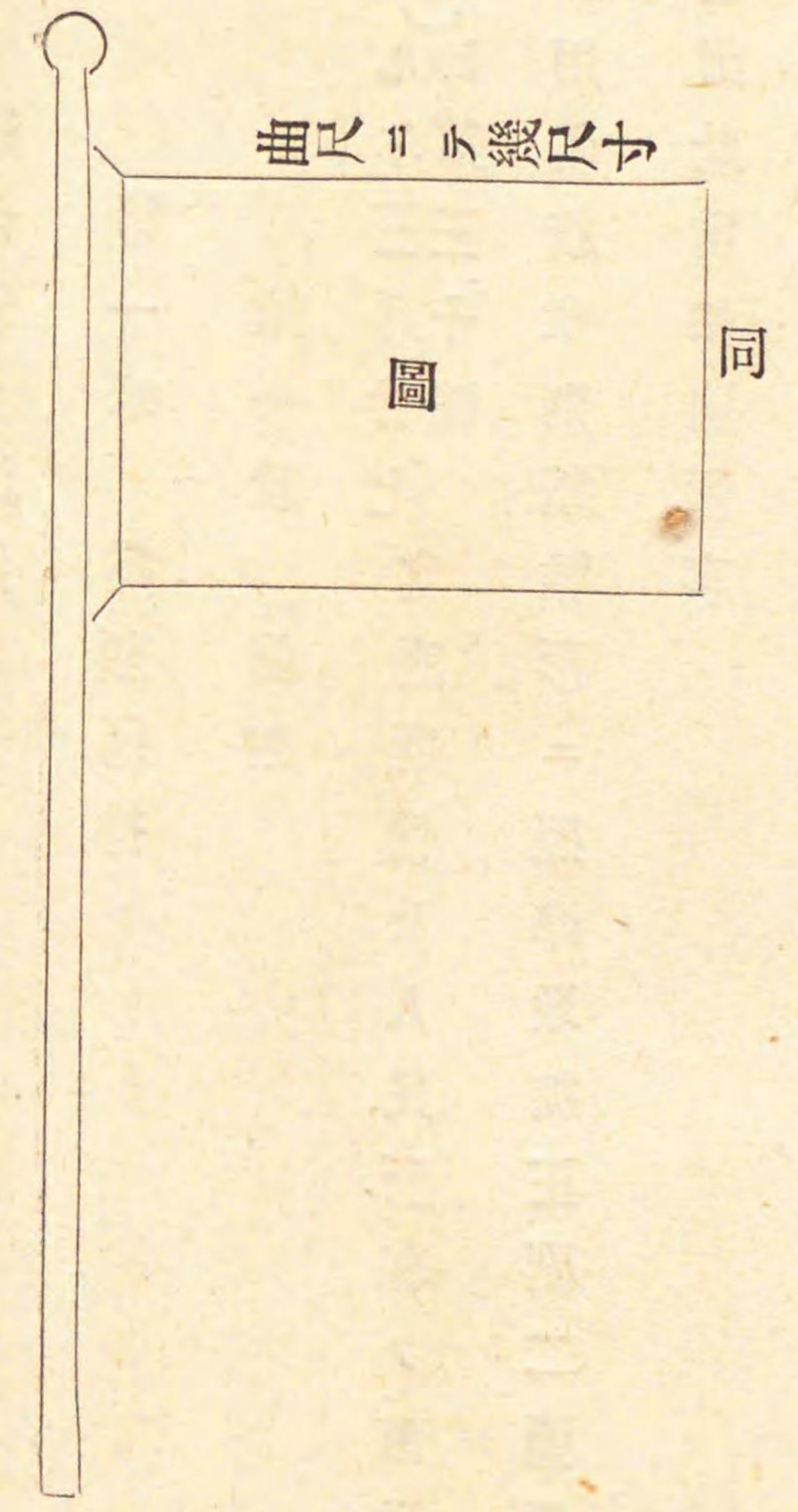
船名

開拓使又ハ何府縣管下

何國郡町村

何商會社

壹人ニテ所有ノ分ハ其持主姓名



但何年月ヨリ相用ヒ又ハ改正候事

前書之通旗章相用候此段御届仕候也

年號月日

社長或ハ代理

姓名

壹人ニテ所有ノ分ハ

使府縣管下
何國郡町村

華士族平民

姓名印

所轄長官宛

前書之通相違無之候也

年號月日

所轄長官印

海軍省長官宛

〔內務省指令〕九年三月十四日大坂府同 西洋形船蒸氣或帆前船持主へ

兼テ御省ヨリ御下渡シノ船免狀及其管轄廳ヨリ下附ノ船鑑札ヲ以抵當ニ差入レ金子借受候儀ハ成規ニ於テ差支無之哉

四月五日 書面船舶持主へ下附セル船免狀及船鑑札ハ常ニ本船ニ保持可致品ニ付之ヲ債主へ渡置候儀ハ不相成儀ト可心得事

〔海軍省達〕九年六月十日 西洋形帆^{蒸氣}前船等當省所轄橫須賀造船所ニ於テ修覆出願隨テ落成ノ節ハ即時概算ヲ以テ其修覆代金ヲ納附セシメ追テ正算ノ上殘餘ノ分ハ差戻シ不足ノ節ハ更ニ納附可爲致萬一右概算高ノ金額納附不相調者有之節ハ如何ナル事故申立候共一切出帆不差許候條豫テ各管下へ無遺漏告示可有之此旨相達候事

第二款 商船規則

〔司法省指令〕日東京裁判所伺本年第一百六十六號ヲ以テ酒
 造其外鑑札規則追加ノ儀被相廢更ニ商船云々ト布告
 有之右ハ從前遺失誤毀スル者へ科料申付候儀ハ被廢
 候儀ト存候果シテ然ラハ府廳限リ賦金取立或ハ職業
 取締等ノ爲メニ渡置鑑札遺失誤毀スル者ノ處置會テ
 相同候節ハ改定律例第一百一條ニ依リ處分スヘキ旨御
 指令有之ト雖モ上文ノ權衡ニ依レハ是亦止タ手數料
 爲相納罪ニ問サル方允當ナランカ就テハ自今ハ右等
 府廳限リノ處分ニ任セ當廳ニ移スニ不及儀ト相心得

可然ヤ

但官文書ト雖モ水火盜難ニ係リ毀失スルハ罪ニ問
 ハサルニ鑑札ハ手數料爲納候モ比較如何可有之哉
 唯遺失誤毀スル者ノミ手數料爲納候方哉ト存候添
 テ此段奉伺候

九年二月十日 商船牛馬等ノ鑑札ヲ毀失スル者ハ手數料ヲ
 相納サスルノミ科料ヲ申付ルニ及ハス地方官ノ處分ニ
 任ス可シ 但書牛馬等ノ鑑札ハ元ト私物ニ係ル手數料
 ヲ納ムレハ更ニ下渡ノミ官文書ト比較スヘキ者ニ非ス
 其手數料納方ノ儀ハ昨八年第一百六十六號公布ニ就テ知

ル
ヘ
シ

第三款 西洋形商船々長免狀規則(本編更ニ此
款ヲ設ク)

(布告)第九年六月六日 西洋形商船船長運轉手機關手試驗規則

別冊ノ通相定候條此旨布告候事

但試驗所其他詳細ノ儀ハ受驗志願ノ者ヨリ直ニ驛遞寮

ヘ可伺出事(同年十二月十二日第五百十三號布告ヲ
以テ改正追加アリ各條ノ下ニ註明ス)

西洋形商船々長運轉手及ヒ機關手試驗免狀規則

此規則ハ船長運轉手及ヒ機關手約定總則及ヒ試驗

免狀章程ノ兩款ニ分ツ

此兩款ハ航洋船ニ施行スルモノニシテ湖川、港灣、内
海、或ハ海峽中ニ限り運用セル船ニ施行セサルモノ

トス

船長運轉手及ヒ機關手約定總則

第一條

明治第十年第一月一日ヨリ以後(海軍諸艦ヲ除キ)登簿噸數
一百公稱馬力五十以上ノ西洋形航洋船ノ船長運轉手或ハ
機關手タル者ハ何人タリモ此規則ニ遵テ發出シタル免狀
ヲ受有スルニ非サレハ其職ヲ執ルヲ許サス

第二條

船長運轉手及ヒ機關手ノ免狀ヲ分ケテ甲乙兩種トナス即
チ本免狀假免狀是ナリ

(甲)本免狀ハ後ニ記載セル本則ノ條款或ハ内務卿ノ命令或
ハ其他須要ナル順序ニ從ヒ試験ヲ了リタル人ニ授與ス
(乙)假免狀モ亦後ニ記載セル假則ノ條款ニ照シテ之ヲ授與
ス然レモ明治十五年第一月一日以後ハ總テ之ヲ廢止スヘ
シ

第三條

第一條ニ記載セル日月以後ハ登簿噸數一百以上四百以下
ノ航洋船ハ其等級ニ適セル本免狀若シクハ假免狀ヲ受有
スル船長及ヒ一等運轉手ヲ乘組シメ又登簿噸數四百(同年)
五百以上ノ航洋船ハ其適等ナル本免狀ヲ受有スル船長一
ムト改

等運轉手及ヒ本免狀若クハ假免狀ヲ受有スル二等運轉手
 ヲ乗組マシメ公稱馬力五十以上一百以下ノ航洋漁船ハ適
 等ナル本免狀若シクハ假免狀ヲ受有スル一等機關手ヲ乘
 組マシメ又公稱馬力一百以上二百以下ノ航洋漁船ハ其適
 等ナル本免狀若シクハ假免狀ヲ受有スル一等及ヒ二等ノ
 機關手ヲ乗組マシメ又其船二百(同年三百)馬力以上ナレハ
 一等機關手ハ其適等ナル本免狀ヲ受有シ二等機關手ハ本
 免狀若シクハ假免狀ヲ受有スル者ヲ乗組マシメサレハ其
 出港ヲ許サス(以下懲罰)

第四條

三三三

内務卿ハ船長運轉手及ヒ機關手試験ノ章程ヲ時々受験人
 ノ適度ニ隨ヒ又其場合ノ肝要ナルニ應シテ改正シ其司驗
 官ヲシテ之ヲ實施セシムヘシ

第五條

受験人ハ試験章程ニ掲載セル手數料若クハ内務卿ヨリ其
 都度ヤ々命シ定ムル所ノ金額ヲ納ムヘシ此金額ハ手數料
ト但シ是等ハ試験ノ前ニ其筋吏員ニ交付ス可シ
 若シ受験人落第セルハ既ニ納メシ手數料ノ半額ヲ還付
 スヘシ

第六條

後ニ記載スル條款ニ從ヒ受験人ノ試験ヲ完了シ且技藝其
 等ニ應シ性質行狀善良ナルノ明証アリ其他各般皆所要ニ
 適セリト司驗官ヨリ報告セハ内務卿ハ第三條ニ記セル免
 狀ノ階級ニ照シ若干噸數若シクハ若干馬力航洋船ノ船長
 或ハ一等若シクハ二等運轉手或ハ一等若クハ二等機關手
 タルヘキヲ証スル免狀ヲ本人ニ授與スヘシ
 若シ同卿ニ於テ其報告ヲ未タ信實ナラスト思察スルハ
 更ニ前度ノ司驗官或ハ他ノ司驗官ニ命シテ再ヒ之ヲ試験
 セシメ且其受験人ノ証書及ヒ行狀等ヲ審究シテ後之レニ
 免狀ヲ授與スヘシ

第七條

内務省ハ簿冊ヲ製爲シ授與セシ每號ノ免狀及ヒ司驗官ノ
 氏名等ヲ登記シ他日ノ証ニ供ス

船長其他若シ其受領セル免狀ヲ亡失或ハ竊取セラレ其自
 己ノ過失ニアラサルヲ詳明シ得ルトキハ簿記ニ照ラシ
 更ニ免狀ヲ作テ之ヲ授與スヘシ
 更ニ授與セル免狀ニハ再授ノ文字ヲ記スト雖其効驗ハ
 都テ原免狀ト異ナルナシ

此場合ニ於テハ本途試験料ノ半額ヲ納ムヘシ

第八條

船長若クハ船主其僱使スル海員船長ヲ除ク外一切ノト取結フヘキ僱入雇止約定書ヲ其掛リ吏員ノ眼前ニ於テ調印スルキ前ニ記載セル規則ニ照應シタル其船長運轉手及ヒ（汽船ナラハ）機關手ノ免狀ヲ其吏員ニ出シテ検査ヲ受クヘシ（雇入雇止ハ追テ制定布告スヘシ）此吏員之ヲ檢シテ眞正且充全ナリト思惟スルキハ則チ其検査証書ヲ作り乏ヲ授與セル月日及ヒ海員雇入雇止約定満期ノ月日ヲ記載シテ其船長若クハ船主ニ授與スヘシ

右約定期限中船長運轉手（汽船ナラハ）機關手ノ交替アルキハ更ニ其船長若クハ船主ヨリ前節ノ如ク其免狀ヲ其掛吏員ニ出シテ再ヒ検査証書ヲ受クヘシ

各船出港免狀ヲ請フキハ税關官吏へ前記ノ証書ヲ出スヘシ若シ此証書ヲ出サ、ルキハ税關官吏ハ出港免狀ヲ授與スヘカラス（以下懲罰則ニ出）

第九條 （懲罰則）

第十條

内務卿ハ各船長運轉手或ハ機關手ノ技藝劣等若クハ粗暴ナルカ或ハ不行狀ニシテ其職務ヲ執ルニ不適當ト思察スル片ハ直ニ之ヲ審究或ハ審究セシムヘシ而シテ左ニ掲クル場合ニ於テハ其免狀ヲ取消シ或ハ一時其使用ヲ停止ス

ヘシ

第一 亂醉 不行狀 粗暴 指揮ニ悖戾ス 職務ニ怠ル者

第二 其失錯又ハ不良ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ捨テ或ハ之レニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ナヒ或ハ人ニ大傷痕ヲ被ムラシムル者

第三 他ノ甚シキ罪科ヲ犯セシ者(以下一節懲罰則ニ出)

其掛リ吏員ハ其免狀ヲ取消シ或ハ其所用ヲ停止セラレタル者ヲ一百噸以上又ハ五十馬力以上ノ航洋船ノ船長運轉手若クハ機關手トシテ其職ヲ執ラシムヘカラス(以下一節懲罰則ニ出)

出)

第十一條(第十二條共懲罰則ニ出)

船長運轉手及ヒ機關手試験免狀章程

第一條

船長運轉手及機關手ノ試験ハ東京ニ於テ毎月第一及ヒ第三ノ火曜日ニ執行スヘシ又其事宜ニ由リ他所ニ於テモ之ヲ執行スルコアルヘシ然ル時ハ其趣ヲ三十日以前ニ廣告スヘシ

前ニ記載シタル定日ノ外タリ別段手数料トシテ金五圓ヲ納メ臨時試験ヲ願フ者アレハ何日ヲ論セス司驗官ノ都

合ニ因テ之ヲ執行スヘシ但其受験人落第スルモ既ニ納メ
シ別段手数料ハ返附スルコト無シ

第二條

受験人ハ其試験ノ日ヨリ少クモ一日以前ニ其氏名貫籍及
ヒ其性質行狀善良ニシテ實地經歷アルノ證書ヲ証人ヲ以
テ差出スヘシ其證書ナケレハ何人ニテモ試験ヲ許サス

第三條

受験人ハ其證書ヲ出スル左ニ掲載スル試験料ヲ其試験所
ニ納ムヘシ

第一則ニ從ヒ本免狀ノ試験料

船長

金拾五圓

全上 既ニ一等運轉手
免狀ヲ所持スルモノ

全拾圓

一等運轉手

全拾圓

全上 既ニ二等運轉手
免狀ヲ所持スルモノ

全五圓

二等運轉手

全五圓

一等機關手

全拾五圓

全上 既ニ二等機關手
免狀ヲ所持スルモノ

全拾圓

二等機關手

全拾圓

第一則ニ從テ試験ヲ受ケタル者若シ落第スルモハ其試験
料ノ半額ヲ返附スヘシ

第二則ニ從ヒ本免狀ノ試験料

船長

金五圓

一等機關手

全五圓

第三則ニ從ヒ假免狀ノ試験料

船長

金七圓五拾錢

一等運轉手

全五圓

二等運轉手

全貳圓五拾錢

一等機關手

全七圓五拾錢

二等機關手

全五圓

第二及第三則ニ從ヒ試験ヲ受ケタル者落第スルモ其試験

料ハ返附セサルヘシ

第四條

第一則ニ從ヒ上級ノ試験ヲ受ケ落第スルモ下級ノ試験ニ及第スルモ其應等ノ免狀ヲ受ケ得ヘシ然レモ其試験料ノ一部分ヲモ返附セサルヘシ

第五條

船長及ヒ運轉手ノ受験人測量學ノ試験ニ落第スルト三回ニ及フモ其最後落第ノ日ヨリ三ヶ月ヲ經サレハ再試ヲ許サス又船具運用學ノ試験ニ落第スル三回ニ及フモ其最後落第ノ日ヨリ六ヶ月以上航洋船ニ乗組ニ實地修業ス

ルニアラサレハ再試ヲ許サス

第六條

機關手ノ受験人紙上ノ問題ニ於テ落第スルモ爾後再試ニ堪ユヘキ學知ヲ充分セリト思考スルトキハ何時ニテモ其再試ヲ願ヒ得ヘシ然レモ實地作業上ノ試験ニ落第スルハ其落第ノ日ヨリ三ヶ月ヲ經サレハ再試ヲ許サス

第七條

船長及ヒ運轉手ノ受験人ハ平生各自ノ熟知セル式及ヒ表ヲ用テ問題ヲ答フルヲ許ス故ニ其席上ニ自己ノ書籍ヲ携帶シ得ヘシ

第一則ニ從フ試験ニ於テ其答題ヲ爲スノ時限ハ午前第十時ヨリ午後第三時マテ五時間ト定メ第二及ヒ第三則ノ試験ハ二時間ト定ム故ニ若シ此時限ヲ過テ其答題ヲ了ラサレハ則チ之ヲ落第者トナスヘシ

第八條

一等及ヒ二等機關手ハ特ニ後ニ記載スル條款且其本分ノ職務及ヒ其作業ニ就テ試験スルヲ緊要トス

其受験人己ニ口上ノ試験ヲ能ク經了セハ更ニ筆上ノ問題ヲ授ケ其各自ノ平生慣用セル方法ヲ以テ之ニ答ヘシムヘシ

第一則ニ從ヒタル試験ハ午前第十時ヨリ午後第三時マテ
五時間ヲ限リ第二及ヒ第三則ニ從フ試験ハ二時間ヲ限リ
テ其答題ヲ了ヘシムヘシ

第九條

若シ他人ノ文案ヲ剽竊シ或ハ他人ノ告知ヲ得或ハ他人ト
助力ヲ授受シ其他如何ナル手立ニ依ルトモ試験時間ニ他
人ト往復セシコ發覺スルニ於テハ則チ之ヲ落第者ト見做
スヘシ

第十條

試験問題ノ應答ハ石版若クハ反古紙ヲ用テ記スヘカラス

其答題ヲ記シ了ラサル間ハ決テ試験室ヲ去ルヘカラス

第十一條

總問題ヲ定時間ニ正シク應答シ了ルキハ則チ之ヲ試験及
第者トナスヘシ

第十二條

船長及ヒ運轉手ノ受験人ハ計數ニ係ル問題ノ應答ニ於テ
一里以外ノ誤算アルヘカラス

第十三條

機關手ノ受験人若シ其筆上ノ問題ヲ定時間ニ應答シ能ハ
スト雖モ既ニ其問題三分ノ二以上ヲ應答シ了リ且口上ノ

試驗其願請セル階級ノ機關手トナルニ充分適當セリト司
驗官之ヲ思量スルキハ則チ之ヲ及第者ト公許スヘシ

第十四條

試驗課程

第一則 本免狀ヲ受クヘキ受験人ニ要スル技藝

○二等運轉手

二等運轉手ハ必ス年齡十八歳ニ滿チ四ケ年以上海上ニ在
リ或ハ二ケ年以上海軍兵學寮或ハ三菱會社其他ノ商船學
校ニ在テ修業シ航海運用ノ學科ニ於テ適合ノ試驗ヲ經テ
後三ケ年以上海上ニアリシ者ニテ左ノ試驗課程ニ及第セ

ルモノトス

測量學

通常往復文章ヲ作為シ得ルヲ

加減乗除十分分數及對數用法

日課

航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午
マテノ船方向航程ニ羅針ノ偏差風壓等ヲ算入

シテ本船所在ノ經
緯度ヲ求ムルヲ

起程已達兩地ノ經緯度ヲ以テ其針路航程ヲ瑪氏航法

及ヒ中分緯度航法ニ據リテ算定スルヲ

經度ヲ求ムル爲ノ大陽赤緯ヲ正スヲ

大陽子午線高度ニ依テ緯度ヲ算定スルヲ

出沒方位アムブリチユードヲ測定シテ羅針ノ偏差ヲ求ムルコト

六分儀ノ用法ヲ熟知スルコト

航海日誌ヲ記スコト

船具運用學

索具取附方及ヒ取脱方

船内荷物積納方

沙漏時限及ヒ測程線測鉛線ノ尺度

帆船及ヒ瀛舶海上衝突豫防規則及ヒ暗霧ノ信號各國

普通商船用信號旗用法

○一等運轉手

一等運轉手ハ必ス年齡十九歳ニ滿テ五ケ年以上上海内ニ在
リ其内一ケ年以上二等運轉手ノ職ヲ執リシ者ニテ二等運
轉手試驗課程ノ外ニ左ノ試驗ニ合格ナル者トス

測量學

平面三角法

方位角アズマツスヲ測量シ羅針ノ偏差ヲ算定スルコト

羅盤ニテ陸地ノ方位ヲ計リ或ハ現船所在ノ經緯度ニ

依テ海圖上ニ船舶ノ位置ヲ記スコト

朝時ノ算法

時辰儀ヲ比較シ及ヒ其遲速ヲ定ムルコト

大陽高度ト時辰儀ニ依テ經度ヲ測定スルコ
子午線外ノ大陽高度一ヲ以テ緯度ヲ算定スルコ
六分儀ヲ正スコ

船具運用學

鞆泊^{カウリン}ニ依テ船舶ヲ繫止メ又之ヲ解放チ安全ニ放泊ス
ルコ

碇ヲ船外へ運ヒ出スコ

圓材^{スプアー}及ヒ帆ノ取扱方

檣及ヒ重荷ノ取入方及ヒ取出方

帆ヲ掛ケ帆ヲ仕舞フコ

暴風ノ時船舶ノ取扱方

風下ノ陸地ヨリ船舶ノ避方

日本及ヒ支那海燈臺ノ位置

○船長

船長ハ必ス二十一歳以上ニシテ六ケ年以上海上ニ在リ内
一ケ年ハ一等運轉手一ケ年ハ二等運轉手ノ職ヲ執リシ者
乎或ハ二ケ年以上一等運轉手ニ在任シタル者ニテ一等運
轉手試験課程ノ外ニ左ノ試験ニ及第セル者トス

星象ニ依テ緯度ヲ算定スルコ

地平儀ヲ用ヒテ測量シタル天體高度ニ依テ時辰儀ノ

誤指日差ヲ定ムルコト

羅盤船内ノ鉄部ニ感動スルノ理

大陽及ヒ遠隔シタル物體ヲ測リ羅盤ノ自差ヲ算定スルコト

船舶ノ方位ヲ定メ又ハ海圖ニ記載セル淺深ト測鉛ヲ以テ測量シタル淺深ト比較スル爲メニ潮ノ満干方位等ノ定則ヲ了解シ得ルコト
破損等ニヨリ船舶ノ航海シ難キトキ假ニ之ヲ補理スルコト
難破ノ節乗組救助ノ手立

颶風ヲ避ル定規

日本海岸ノ地勢(燈臺礁標浮標港灣ノ位置)ヲ熟知スルコト

〇二等機關手

二等機關手ハ年齢二十一歳ニ滿チ既ニ機械所ニ在ッテ少クモ三ケ年以上機械製造又ハ修繕ニ從事シ一ケ年以上海上ニ在テ機關室ノ職務ヲナセシ者乎又ハ少クモ四ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニ在テ機關室ノ職務ヲナセシ者ニテ左ノ試験課程ニ及第セル者トス

一 汽罐ボイラーノ辨解汽罐固定法及ヒ各種ノ辨嘴管ウハルウコックパイプノ用法取

扱方及ヒ其接合ノ方法

二 不慮ノ災害等ニ依テ生スル機關ノ損害ヲ正シ之ヲ

補理スルコト

三 驗氣器ウエキキ驗温器ワルモメイトル驗液器ハイドロメイトル驗鹽器カリソメイトルノ用法

四 覆金インクラシスニ損害ヲ生シ及ヒコルローシヨ磨耗ヲ起ス原因ヲ洞察シ及

ヒ改復スルコト

五 機關ノ部分不順ナルカ或ハ全ク破損セシキ一時假

ニ之ヲ補理シ或ハ充分ニ之ヲ修理スヘキカ如何ヲ

洞察スルコト

六 筆書ハ讀得ヘクシテ算術ニ於テハ加減乗除及ヒ十

分分數ニ通スルコト

七 一般ニ行ハル、外輪及ヒ螺旋スクリ機關各種ノ辨解及ヒ

機關内外諸部轉動ノ理

○一等機關手

一等機關手ノ受験人ハ年齢二十二歳ニ滿テ少クモ一ケ年
間公稱馬力五十以上ノ航洋船ノ二等機關手ニ服從シタル
者ニテ二等機關手試験課程ノ外ニ左ノ試験ニ合格ナル者
トス

一 製造ノ爲メ機關及ヒ汽罐各部ノ圖ヲ摸寫スルコト

二 「インヂケートル」ヲ用ヒテ機械力ヲ算定スルコト

三 汽罐セーフチバルブ安全辨上蒸氣ノ壓力及ヒ汽罐ノ強弱ヲ算定ス
ルコ

四 機關ノ肝要ナル部分ノ割合

五 スライトバルブ滑辨及ヒ車軸ノ位置ヲ正シ之ヲ裝置スルコ

六 「サルフエスコンデンセーション」外ニ通シ之ヲ冷シ蒸氣ヲ許多ノ水管

ニ再ヒ水「シユベルヒーチング」蒸氣ヲ許多ノ管内ニ滿テシメ其外面ニ火

烟ヲ通シ過度ノ及ヒ蒸氣ヲ膨脹セシメ之ヲ用フル

コ

七 算術ニ於テハ面體ノ求積法及ヒ開平方ヲ熟知スル

コ

第二則 此則ニ依テ亦本免狀ヲ船長及ヒ一等機關手

ニ授與ス

第一明治十年一月一日以前ニ於テ未タ全ク其級ノ試験ヲ

受ケサルモ既ニ登簿噸數四百以上ノ航洋船ニ四ヶ年以

上船長タリシモノニテ若シ内務卿ニ於テ本人ノ性質及

ヒ實地經歷ノ事實其免狀ヲ授與スルニ適當ト思考スル

トキハ之レヲ授與スヘシ

然レトモ此受験人ニ就テハ羅盤船内ノ鐵部ニ感動スル

ノ理其自差ヲ測定シテ方位ヲ正シ地平儀ヲ用ヒテ測量

シタル高度ニ依テ時辰儀ノ誤指日差ヲ定メ颶風避脱ノ

方法及ヒ日本支那海岸ノ模様ヲ熟知スルヤ否ヤノ試験
ヲ以テシ其他司驗官ノ其級ニ必用ト思考スル他ノ事件
ヲモ試験スヘシ

第二前ニ記載スル月日以前ニ未タ全ク其級ノ試験ヲ受ケ
サルモ既ニ公稱馬力二百以上ノ航洋汽船ニ四ヶ年以上
一等機關手タリシ者ニテ若シ内務卿ニ於テ本人ノ性質
及ヒ實地經歷ノ事實其免狀ヲ授與スルニ適當ト思考セ
ルトキハ之レヲ授與スヘシ

然レトモ其受験人ニ就テハ「サルフエスコンテンセーシ
ヨン、シユペルヒーチング」蒸氣膨脹力ノ用面體積ノ算法
イクスパンション

及ヒ開平方ノ試験ヲ以テシ且ツ司驗官ノ其級ニ必用ト
思考スル事件ヲモ試験スヘシ

第三則 船長運轉手及ヒ機關手約定規則第二條ニ從
ヒ授與スヘキ假免狀

一 船長ノ假免狀ハ後チニ記スル條款ニ遵ヒ明治十年第
一月一日以前ニ於テ一百噸以上ノ西洋形船ニ一ヶ年
以上船長ノ職ニ在リシ者又ハ海軍大尉ノ任ニ在リシ
者ニ與フヘシ

二 一等運轉手ノ假免狀ハ後チニ記スル條款ニ遵ヒ明治
十年第一月一日以前ニ於テ一百噸以上ノ西洋形船ニ

一ヶ年以上一等運轉手ノ職ニ在リシ者又ハ海軍中尉ノ任ニ在リシ者ニ與フヘシ

三二等運轉手ノ假免狀ハ後ニ記スル條款ニ遵ヒ明治十年第一月一日以前ニ於テ一百噸以上ノ西洋形船ニ一ヶ年以上二等運轉手ノ職ニ在リシ者又ハ海軍少尉ノ任ニ在リシ者ニ與フヘシ

四一等二等機關手ノ假免狀ハ後ニ記スル條款ニ遵ヒ明治十年第一月一日以前ニ於テ公稱馬力五十以上ノ航洋船ニ一ヶ年以上機關手ノ職ヲ執リシ者ニ與フヘシ

凡テ假免狀ヲ願請スルモノハ既ニ記載ノ通各適合ノ履歴アル者ニシテ且第一則ニ從ヒ夫々其年齡ニ適シ定數年間航海ニ從事セシ者トス

假免狀ヲ請求セント要スル船長一等二等運轉手ハ第一則ニ遵ヒ夫々其分ノ試験課程ニ係リ一問題ヲ應答シ且日本海岸ノ地勢(燈臺礁標浮標港灣ノ位置)ヲ實地通曉スルヲ要ス

假免狀ヲ請求セント要スル一等機關手ハ第一則一等機關手課程中第七項二等機關手ハ同則二等機關手課程中第六項ニ遵テ各其分ノ試験ヲ受クヘシ

〔增〕布告〔九〕年十二月十二日追加假免狀ヲ願請スル者ハ前ニ記載ノ試験課程ニ適合スル能ハサルモ多年間實地ノ作業ニ習熟シ満足ノ履歴アル者ニシテ且試験官ニ於テ充分其職ニ適應セリト見認ル時ハ及第者ト見做シ應分ノ免狀ヲ下與スルコアルヘシ

〔增〕布告〔九〕年六月廿八本年六月第八拾貳號布告西洋形商船船長運轉手機關手試験規則別紙ノ通追加候條此旨布告候事
西洋形商船船長運轉手及機關手試験免狀規則追加

第一條

明治十年一月一日以後登簿噸數壹百未滿公稱馬力五拾未

滿ノ運送瀛船(湖船運用ノ分共)ニ乗組船長及機關手タル者ハ次ニ記載スル條款ニ遵ヒ技術ノ試験ヲ請ケ其本分ノ免狀ヲ所持スル者ニアラサレハ其職ヲ執ルヲ許サス

第二條

既ニ本則ノ試験ヲ經テ免狀本ヲ所持スル船長機關手一等二等ハ勿論運轉手一等二等ト雖モ此條款ニ遵ヒ別ニ船長ノ免狀ヲ受ケサルモ運送瀛船ノ船長タルヲ得ヘシ

第三條

運送瀛船ハ第一條記載ノ月日以後其技術免狀ヲ所持スル船長及機關手各壹人以上乗組ニアラサレハ其運行ヲ許サ

第四條 (懲罰則) 出

第五條

東京ニ於テハ毎月第二ノ木曜日ニ試験場ヲ開キ大坂ニ於テハ毎年一回若クハ二回其他長崎函館新潟ノ三港へ臨時試験官ヲ派出シ其場ヲ開クヘシ
東京ノ外各地ニ於テ試験場ヲ開ク時ハ其開クヘキ場所及月日等ヲ少ナクモ三十日以前ニ廣告スヘシ

第六條

受験人ハ本則試験章程第二條ニ掲クル如ク其氏名族籍年

齡等ヲ詳記シ保証人ヲ立テ之ニ試験手数料トシテ金貳圓五拾錢ヲ添ヘ試験ノ前日迄ニ其試験所ニ差出スヘシ
船長ノ受験人ハ試験願書ニ航行スヘキ地名ヲ記入スヘシ

第七條

受験人ハ必ス滿二十歳以上ニシテ既ニ貳ケ年以上瀛船運轉ニ從事シ左ノ問題ニ應答シ得ル者タルヘシ

船長試験課程

第一 普通ノ讀書

第二 瀛船運用ノ方

第三 羅針ノ用法

第四 海上衝突豫防規則

第五 船路ノ地勢及燈臺礁標浮標ノ位置(受驗人平生定航スル地方ノ)

機關手試驗課程

第一 蒸氣ノ發生ヨリ機關ノ運動ヲ起サシムル迄ノ手

續順序

第二 馬力ノ多少ニヨリ費消ノ石炭ニ増減アルコト及炭

質ノ善惡ヲ辨知ス

第三 安全辨ノ用及其製作ニヨリ錘量ノ増減

第四 養罐水ノ用方

第五 罐及機關ニ不慮ノ破損ヲ生スル時適宜ニ之ヲ補

理スル方法

第六 滲管或ハ水管ノ接續方及烟管ノ破損スル時之ヲ

補理スルノ方法

右ニ掲クル問題ノ外時宜ニ依リ司驗官ノ意見ヲ以テ猶他

ノ問題ヲ設ケ之ヲ増減取捨スルコトアルヘシ

第八條

此規則ニ記載スルノ外試驗其他ノ諸則及罰則共總テ本則

條款ノ通リタルヘシ

(增)布告九年十二月十八本年六月第八拾貳號布告西洋形商船

船長運轉手機關手試驗規則施行ノ儀ハ同規則中船長運轉

手及ヒ機關手約定總則第八條ニ據リ追テ雇入雇止規則制定布告候迄延期候條此旨布告候事

但本年六月第九拾四號布告同規則追加ノ分ハ來明治十年

六月三十日迄延期候事

九年十一月三十日本年六月第八拾貳號及第九拾四號ヲ以

テ西洋形商船船長以下試驗規則公布相成候處右ハ御

發令以後僅六ヶ月間ニシテ實施可相成ニ付受験人病

氣又ハ試驗所遠隔等ノ故ヲ以テ自然期日內試驗難相

受者モ有之且雇入雇止規則制定御發令不相成候テハ

實際差支候廉モ有之候ニ付御詮議ノ上同規則施行延

期ノ儀甲乙兩號ノ通御布告相成度

八月二十日指令伺ノ趣聞屆第百五拾七號ヲ以テ布告候事

第四款 西洋形船水先免狀規則(本編更ニ此款ヲ設ク)

〔布告〕日第九年十二月十五號 西洋形船水先免狀規則別冊ノ通り制

定來ル明治十年一月十五日ヨリ施行候條此旨布告候事

西洋形船水先免狀規則

第一條

來ル明治十年一月十五日ヨリ以後下ニ記載スル海港ニ於テ西洋形船舶ノ水先人トナリ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條

水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ内務省ノ統轄ニ屬シ全省ニ於テハ充分其筋ニ明カナル者ヲ撰ニ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ

第三條

免狀ハ左ニ記載ノ海港ニ於ケル水先人ニ下付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ下付スヘシ

第一 東京灣

第二 和泉灘

第三 和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四 長崎港